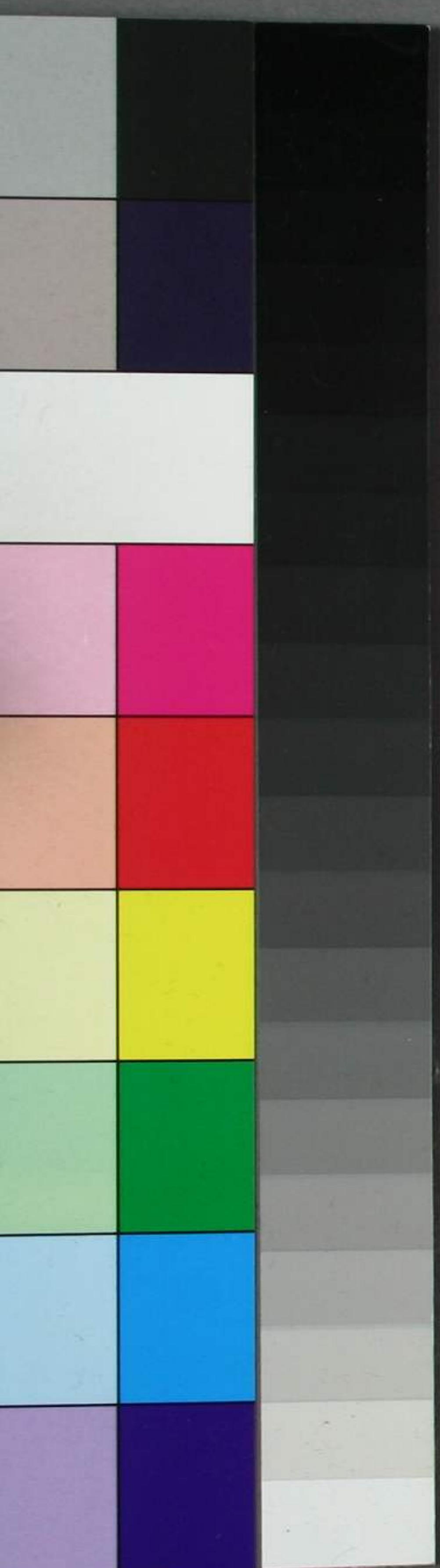
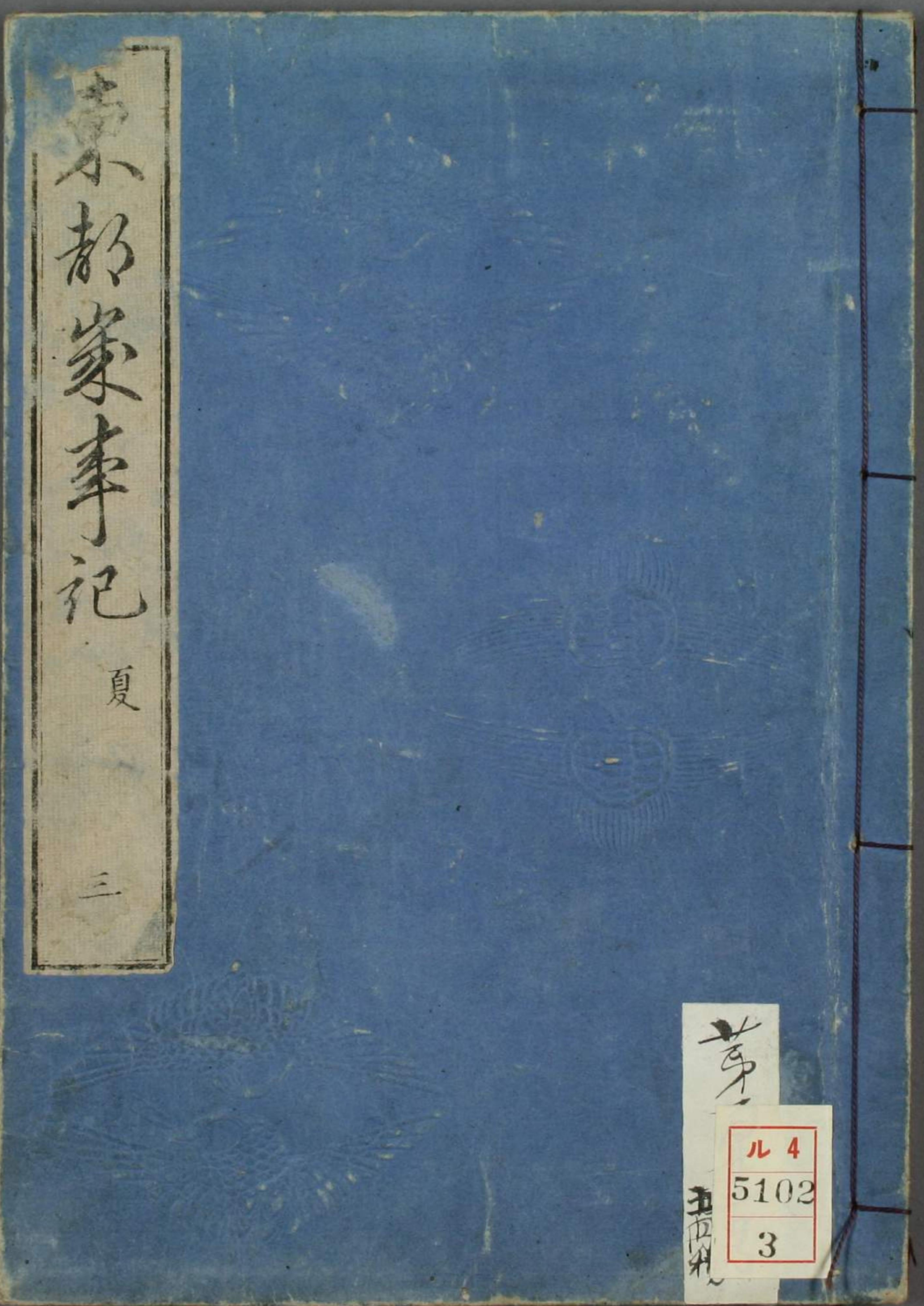


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

JAPAN

Tama

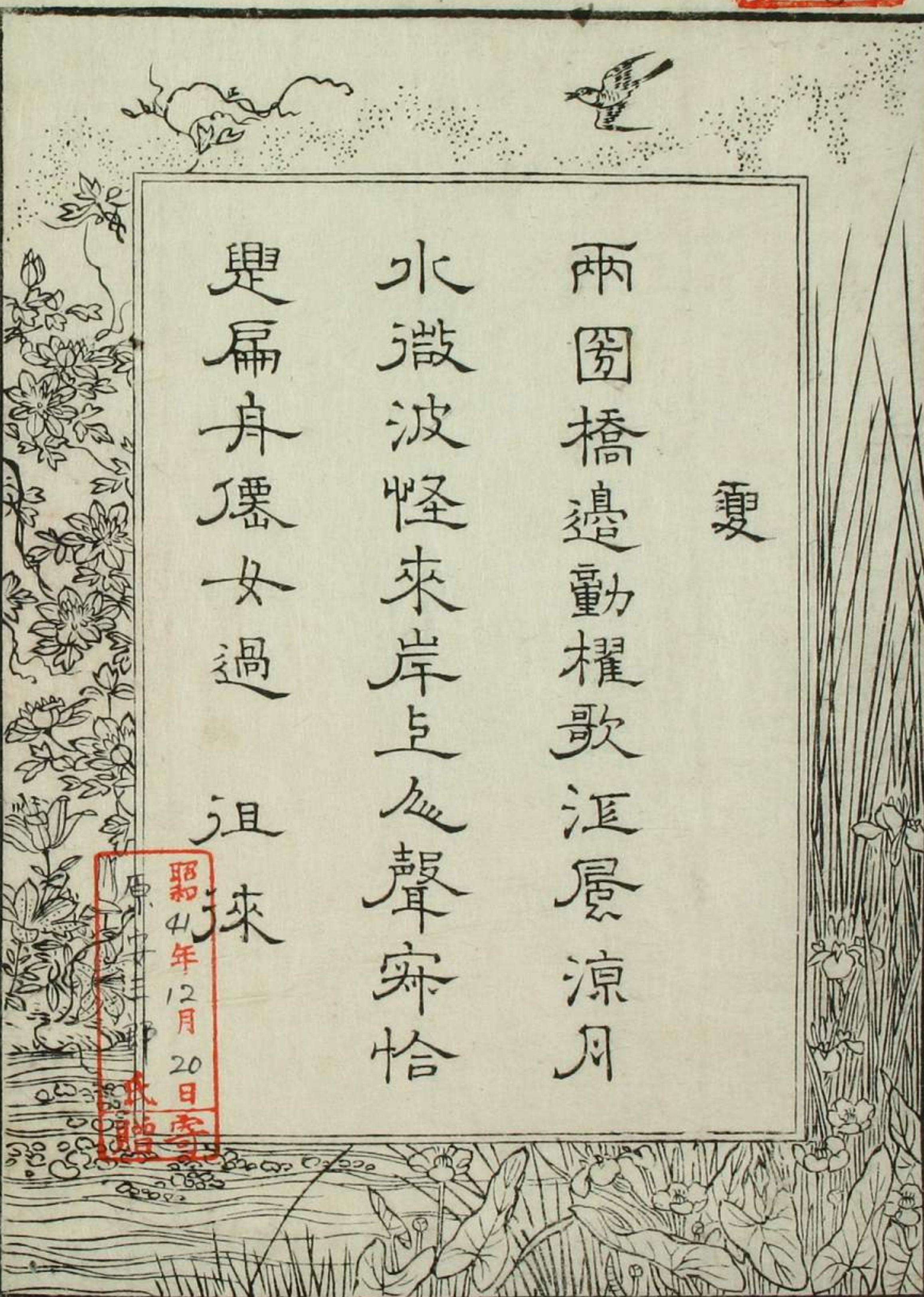


門ル4
號5102
卷3

夏

兩傍橋邊動櫂歌汎晨涼月
水濱波怪來岸上應聲寂恰

雙扁舟櫓女過且來



江戸歳事記卷之二夏之部

四月



- 朔日○更衣（品モカ）今日より五月四日迄貴始浴衣を着も今日より九月八日まで更衣と
えうび庶人單羽織（ミタマシテ）とぞ
- 龜戸天満宮雷神祭七日迄修行（本末不別作多々アラカムツシカ）か年正美作となり雷除と
新（ハシメテ）今自より八月毎日迄雷除のちれと出（スル）を
- 深川靈巖寺弥陀經手部十日まで修行を（スル）同（シテ）作
- 東の湯者（シテ）より燒（ヤク）を塞（サセ）いて風呂と用ふ組一九月晦日（エイジル）より
- 初子日○般食順了寺大（カニタ）祭
- 初卯日○鉄炮洲漆稿荷社祭礼（ホウホウヅシキハコソ）の際（ヒメ）あり神主甫林氏
- 初午日○山谷六子下合力稻荷社印花祭並況行（カクヨウ）をとおて舞社傍接去林惟と移もたり
- 初年日○続地稻荷社祭祀（スヂハコソ）執事第健院（セイジンイエン）と云花地内町の坂下之南小田原町
之序（シキ）生善美伊四子大田ちの木化月峯う義中（シキチウ）小吉て云乎存生の時矣次河碑上人の
化益とぞ一うともタ不果して死ぬ今ハ血の仇（シナギ）と云へり一何卒先の事成
- 三日○奥澤村淨真寺（キリツクニツミジ）佛弥陀經千約十二日迄修行を（スル）本芝林木町の高家
の日達り花の石臺（キタイ）と挖くこの毛羽庭の先祖之序生焉う妻難産ゆく死せりうを冥支
之序生焉美伊四子大田ちの木化月峯う義中（シキチウ）小吉て云乎存生の時矣次河碑上人の
化益とぞ一うともタ不果して死ぬ今ハ血の仇（シナギ）と云へり一何卒先の事成



上人へ告ぐまつと二物を見し不思議ふぞひ矣次よかんとすの秋妻の夫
又上人よりまづてこの子とをふと人情三十念と極めひしよ靈魂故ひまるの後
一つの惟みぞ休せり今だぬもはて付室とほ七月虫拂の義徳人より

五日○赤羽有る家水天宮ゑ毎月とくとも毎月をもりて奉事

六日○東萬西芝又村帝釋天祭礼別題經も今日板本を用帳を巻陀羅尼修

八日○灌佛會諸宗も院勤めあり本堂中又ハ境内より花の事と儲け経像の転迦佛
と薫て佛と供一即の花とぞ又戸外より即の花と供す今日より供する所の
候と号していざ又花くもとしふ年中より大歲より花供持の儀とぞ

京師より涅槃會の老子とぞとあらゆとぞ

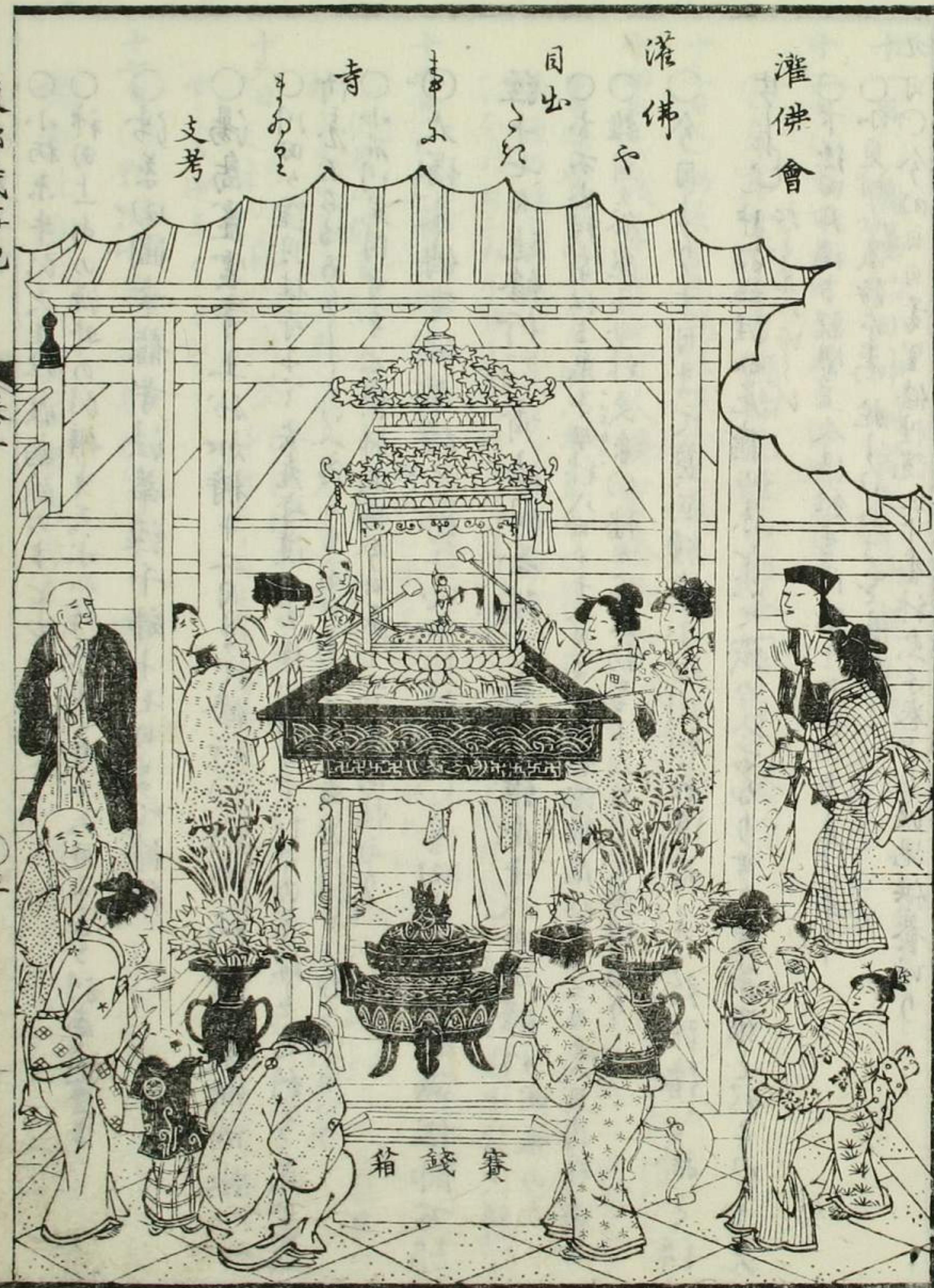
古政事年記
ち山門
正月
支考

東収山法華寺にて修行増上寺諸高人多く坐沙榮寺已刻別室大窟想也
二川きの右の方へ増上寺諸高人多く坐沙榮寺仕間散花經持行及
の地法本布圓向院同弥勒寺大塚護國寺山門より牛込櫻町

海松寺輪縁と闇て小石川鶴道院○東収山増上寺沙榮寺山門闇く
十六日の如一

○小日向新奥寺法花經の文字を画る入百羅漢の像掛る正月廿二日

○青山圓閣寺高木順峯の神車紫燈大護摩修行遠供養なり



○小柄原牛込天王社疫病除の事と出す

○神田上野の源井の辻辨才天水か持今日より十五日より別處大蔵ち

○涉茶園幸龍寺法華經千部十七日まで修行

○湯島靈雲寺土砂加持十二日まで修行○新井林照院薬師國帳

○門田う窪月桂寺より安産守護の宝珠と洋せしむる宝珠と足利ち民公乃
所未不持あり一といひもあらも前日より約一至ヶ八洋せしむるといへり

○小石川宗円寺本本藥師國帳今日英十二日も國帳あり

○大塚本傳寺法華經千部十四日追修行○高田本松も願滿祖師百部

経十七日追修行○青山仙壽院万巻陀羅尼十八日追修行十八日又祖師
開帳あり

○本不出村本仏鬼子母神八日より十八日まで万巻陀羅尼八月十二日十八日内拜あり

○雜司谷鬼子母神又衣○幡谷不動堂十八日まで内拜あり

○今日より十月キテ葛西領東小松川村居通寺ア弥陀像と掛く洋
廿一也中羽姫法姐尼の糸を以て織りてあり世々曼荼羅と称められま
せんたゞ小ハレハレ

○下緒田妙福ち駆鑿上人駆鑿生同麻十日追あり年請年

○小見村秋辰仲本萬蛇かけのさと出

九月○今月日吉里修性院三十番神祇子卷どうに児供養あり

十一日○橋場約目神明宮太々神樂舞行四日今月麻布坂下町
東庵修院委

十二日○本不善町本久も祖師衣替

○本不靈山寺阿弥陀經千部一日まで修行

十三日○涉茶園光院法事山主祭

十四日○淺草寺十万人講寶塔供養於本坊山本あり一小憩出仕にて勤むもの

費供養のみ少て同六年本堂の後又不の二層塔と多きより今日本堂みて

讀經の後より塔の奥みて焼香あり

○今月二十九日頃本郷村西光寺親鸞上人御影坐開帳都トより年請多

十五日○山谷玉姫稻荷祭不動院持度子の場不神輿獅子持て法事境内僅かれども

○深層の結夏ホフニクサ又安クサゲ今日より始モと終モセシウノササシウノサ七十日禁足して

外モ出モを禁モ本農類とやがんモと厭モふがなモなりとモ○立輪牛町稻荷坐

十六日○杉の森稻荷祭礼野村木町モ在神主小野氏產子八野村木町稻荷坐
せーう近幸モなり

十七日○野川日光山神祭祀の日なり諸侯紅葉山東敵山神官へ神事清めり

諸寺社境内神宮法樂あり又ハ神影と拝せしも上此ハ庶人年請

と神事清めり

増上寺 安國殿 沼渠三社 檀現御相殿

御本
像

同 駒寺

源空寺

御画
同

堀端松平西福寺

同

同 西漸寺

同

湯島圓滿寺

同

妻戀稻荷御相

御本
像

殿 廣木

王

子權現社地

高田

六八幡宮社地

青羽町

養玉も境內

御本
像

源川三十三間堂 御鎮座

沼渠

御本
像

本布靈山寺

御画
新

木下川淨光也

御天

海宿山

西久保

大養也

沼渠

橋田久保町坊

正伊藤氏

品川海晏也

御本
像

山麻布廣尾天現也

十總

船橋太神宮社地

江戸

より奈幡年
御主室

文化十あまり二年六月十七日沼渠てらかりなる神像とねづはせむ

御本
像

○堀上も思本も用帳○沼渠東海ちまちま平野大王太之神樂具引

御本
像

○當同本向日定らる新一擣鑿学飯又於て薬品會あり 薬品更なり其の

御本
像

產物医術の要器もむち近経て江戸よ本くも医術の筋筋のくくに裏ふ出さるくと

御本
像

女一日○神田明神社太之神樂舞行

御殿

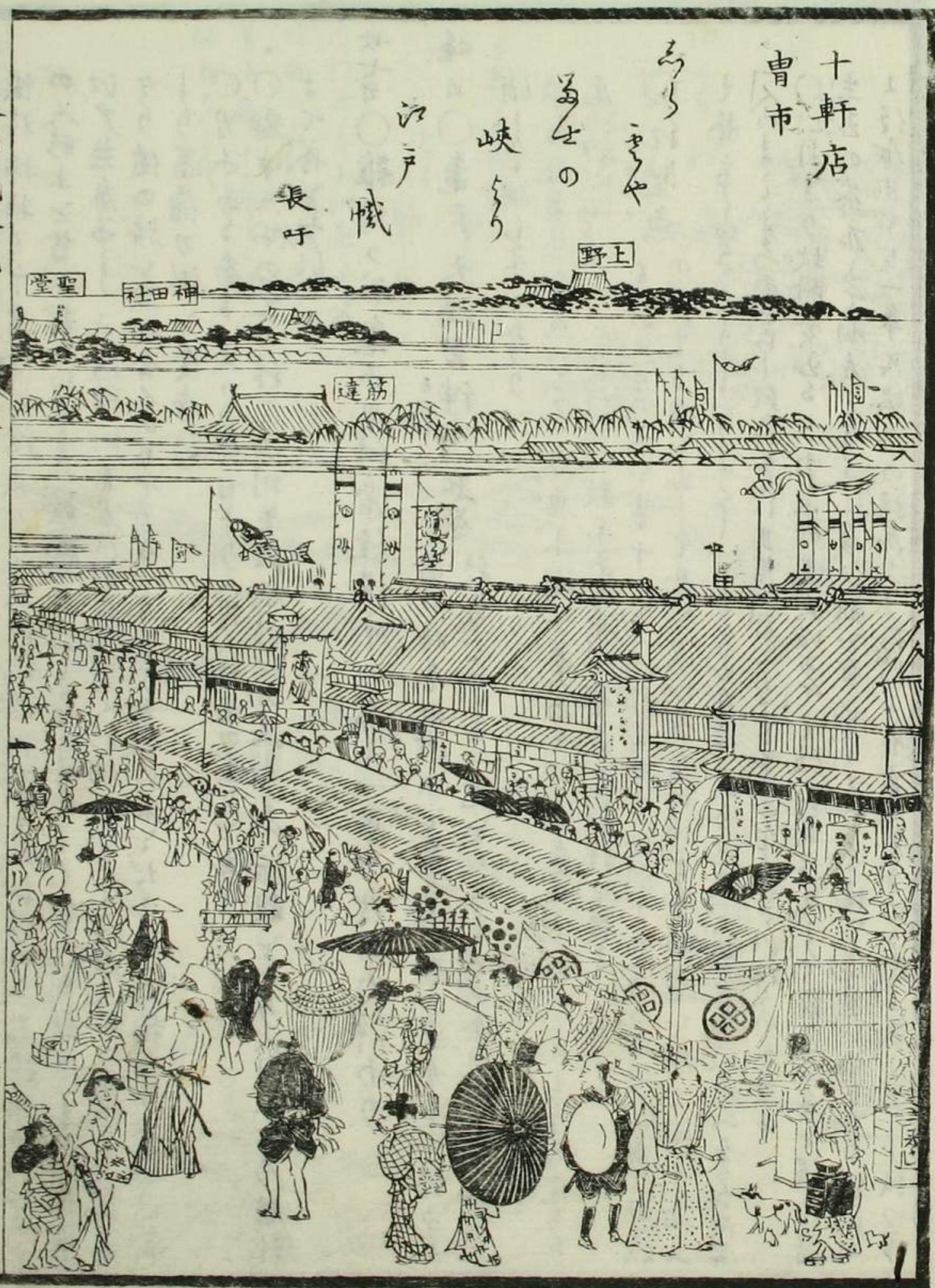
内へ舞臺と儲け社あへ候矣

御本
像

○今日より六月四日迄胄人形萬蒲刀懺の市立

御本
像

場所ハ三月の離市又同一
程還小鹿と様甲冑より



懾旅挿物る乍葛蒲刀滌長刀弓箭綫炮僵剛乃至外和漢の兵器鐘馗像或乃勇士の人形木と售ふ者よりよまへ燈燭ようやきてうつアヘ買人至新より之。再刻の江戸熱麻すり云通隆町者も江戸町中を富人形細ニ人多く活町人形と号し其製麻なり價の物と以因商人のりてともやう今とくの名とだよ知る人稀あり云○此節より葛蒲刀街と賣歩乃

○男子ある都より大きき今日より六月六日迄のがりとす。
○府中ふ木の宮の神主品川走明神社の流主とて塔離とより六月八日乃祭礼まで存とあは

廿七日○難司う谷鬼子母神常經講中の為よ一年一度の内洋あり

晦日○龜戸天満宮神御衣祭カシミツ酉の時冬の御衣と夏の御衣と更奉るのりと

消して供をするなり

○歳月より金魚ひざひ麥魚木街と賣あるく金魚よまえんらんうちう三尾とを尾ハラ小手に何ともさらさりと數があり而く金魚底數種と育毛

○初壁魚ハッカツヨ東京よみの魚と賞するナ化邦は猪を相別とり送る而味ひ美之鄙絶

モ聲もくそざよーくまく、いきを出さん初魚を芭蕉タケイ大勢の手へ一本のをうる間雪

八のまくとまつゆくらへんを以其角同よもまよひやくとまく初魚を素半

○七月より蚊帳素也。宝永の末大坂にてては森美太夫とて説經よ名と得一者生玉の茶店を朋友と喧嘩よみのれと負せーより至傷と退き江戸より後河町

よ後店せーう一年呉服屋の蚊帳もあれよ廢きりえのうとよよやへばつ



物景

東都事記

卷三

生の声と生で賣歩行々まく人美がよろせてひ年数をすれど
先駆を賣らえの始からゆにテ塵拾と/or紙より

○齒同の木より堀留の園廟向むてうちもと製し高ひよおひくー
杜鵑ホトキス○大く立夏をもてより啼初る初そ江の邊もとの多きーとソトモトモ

小石川向山の邊カシマの邊カシマの時多ひあそび啼ホトキる初者の中名より高田雜司谷タカヒロ谷邊町タケヒロ大番

渡河臺 湾原ノ多 神田社 谷中 芝堵上カキツバタ杜 開田川の邊 根岸里 根津辺

牡丹ツバキ○紅レッド白ホワイト連リンドウ 沢川水代寺 近年 谷中天王寺中光明院 庭中回船の
ち島村百花園 深井桂木廊 尾久深山某庭中 その外アラフ桂木廊カキツバタより
上小沢村玲本某園中 とも江府の主移り来る人多し と今あ
杜葛花タカハタ○立夏より二月ツバキ木下川淨光寺 茶師 池中八橋アツマノモリを年社奉の派ハサシ
日め月より木下川淨光寺 境内カミナリを架せり 吾妻森 八橋ハシを架せり

寺島村蓮花寺 同百花園 根津桂現境内池

藤カキツバタ○立夏より十二三日め以迄八日限まで 亀戸天満宮神池の傍カキツバタ樓門の左右は棚あり
定カキツバタ一年より大よ遲速あり 亀戸天満宮神池の傍カキツバタ池中より茶室あり
砂カキツバタ大智オオシタ寺境内 坂本因光寺世俗家カキツバタとよ近年かー

小日向若狭谷カキツバタはぬち佐藤カキツバタ佃島住吉 玲表カキツバタ八まん官在名不かれとも今ち

五月

郊の花カキツバタ○夏至 のば 国黒辺 奥澤九界佛の邊 巢鴨庚申塚カキツバタより王子へ出る道
芍藥カキツバタ○小伎 白余不 寺島百花園 白余不 深井桂木廊

朔日

○押上普賢并用帳を巻普賢不帆江正月の如く

○柳島妙見宮用帳○淺井本法寺方巻陀羅尼廿二日まで修行

五日○端午御祝儀諸侯御登城棕献カキツバタ上有貴賤佳節と祝を 家へ軒端カキツバタ萬蒲

飲カキツバタ又角カキツバタ泰柏カキツバタと製カキツバタ小兒萬蒲カキツバタの戲カキツバタとす○或家カキツバタハ文あり町取カキツバタスモ近七才以下の男子
劍の形カキツバタり行カキツバタきよつけカキツバタ懲カキツバタもすすむ先カキツバタも全世カキツバタの如カキツバタくと出世カキツバタの魚カキツバタとしる達カキツバタり男兒
と後カキツバタの方カキツバタる下カキツバタ車カキツバタの風俗カキツバタとつう初カキツバタの男子カキツバタの如カキツバタく初カキツバタの後カキツバタと別カキツバタて経カキツバタ人カキツバタの如カキツバタく

○貴族カキツバタ今日より麻カキツバタの袴カキツバタと着カキツバタて八月卅日よむ

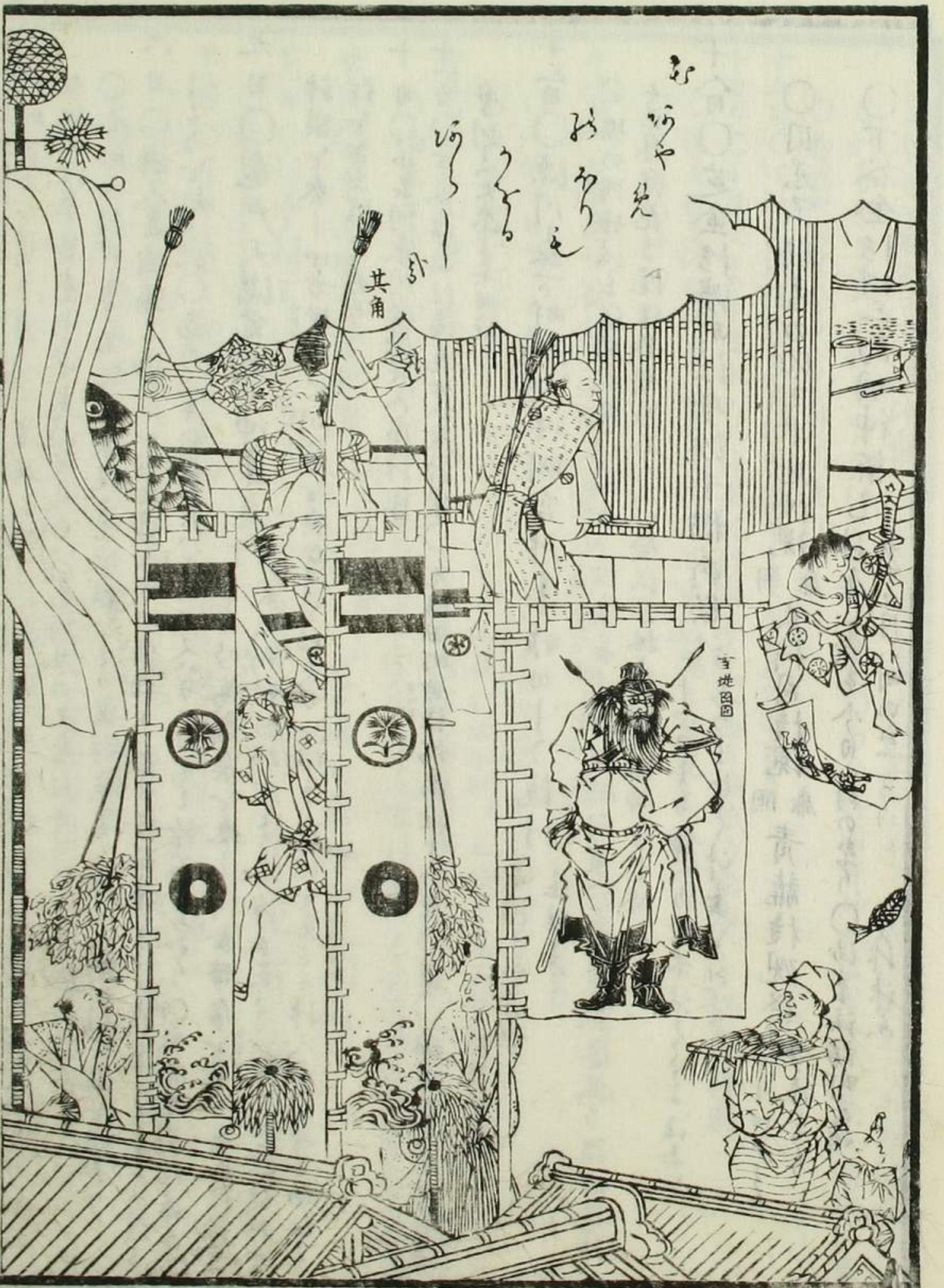
○さう尾カキツバタの毛カキツバタくもあややか斟カキツバタ牛カキツバタ酒カキツバタの萬蒲カキツバタやうもく秀和カキツバタもくやと五士乃
映カキツバタり江戸櫻長カキツバタ子カキツバタの如カキツバタく櫻カキツバタ子カキツバタ持筋カキツバタ不秋

○同裏大鳥明神祭礼相撲興行別當 大聖院○比上本門寺祖師更衣

○府中六所明神祭礼カキツバタ林氏カキツバタ今夜子刻神燈カキツバタ并々産子の家カキツバタ進次カキツバタのとおりひ
とあるとく減カキツバタて園林カキツバタ御旅カキツバタと作業カキツバタより奉幣經カキツバタて還輿カキツバタ

端午市井圖

武江已歷
四端午佳
節時憶
洛城角糆
曾聞化龍
去世間斯
類復何驚
活所



の時篝火と焚き産子の聲挑灯點々燃して神輿を供奉も翌日因縁の作あり

祭祀の次第莫要少て古れと失ひ是府外の大祭なり

○今朝日卯酉向不動院本院モ塔雖シテ者群集モ主と水引て燃と詰まり
六日○諸人菖蒲湯浴シダモ○今日婦女子の佳節と称して遊樂とヨリ後生も未だの枝も
ともろと初めシテ○歲月ハ午の月より午の日又ハ廿日より移行シテあり○麻布度尾稻荷祭
九日○龜戸天満宮太、神樂興行カツコ年カツコ萬歳樂と奏シテ御食幣帛シテ奉り蟄立シテて御宣
神樂を奏シテ方腰カタヒラとて胡蝶シロヒメと負ひうどね太刀と佩き白袍シロコトと着る神人二人は方よりひく
弦シナガとシナガりあり

十日○小石川氷川神社せん座神樂

十一日○下谷稻荷社湯花せん座神樂○元飯田町世達移居社十八羅神樂○麻布櫻田助音も
摩利支天原十七日近

十三日○源川森下町シテ神明宮神事昨日より執行シテ正月十六日の如

○堀の内妙法シテ祖師用帳○浦まどぶ店長遠寺祖師用帳○難翁シテ谷宝城シテ祖師内許
その外法花院祖師用帳あり○螢波宗林寺シテ祖師舍式修行

十四日○芝金杉濱町守護千稻荷祭シテ十日より據へり社未滿シテノ日也

○同恩不動シテの地主早尾棲観シテ麻大行司棲観シテ青龍棲観祭シテ十日より

○下谷金杉村三島明神祭祀シテ神喜と後シテ今日ハ村の事シテ○涉重後訪町之宿シテの作神乐

○今戸八幡宮三千人座神樂○山谷正法シテ毘沙門奈良シテ子卷陀羅尼○柳島妙見宮用帳

○新豊安盛寺妙見宮内許子卷陀羅尼○白令妙因寺妙見宮星祭○篠土明神神樂

○青羽町田中八千人座神樂興行

十五日○下谷高藏院聖天宮神樂汝干シテさんあんの内あり

十六日○小日向上水端氷川神樂シテ九神樂あり別處日輪寺○麻布一本松氷川神樂
○清美姥シテ光明神シテ妙音院持○谷中妙福シテ日親上人像用帳

○妻惠シテ作神乐普請

十八日○難翁シテ谷鬼子母神堂シテ郊女八日まで修行シテ今日万巻陀羅尼

○修シテあり

○小柄原日暮シテ鬼子母神祭シテ十七日より十九日まで修行内許あり

○本不出村本佛シテ鬼子母神内許○本而移野田シテ妙シテ鬼子母神象用帳

十九日○本不押上最教寺七面祭シテ七面シテ一月亮朝院七面宮用帳子卷シテ大金三結坂氷川神樂

○波多幸持シテ柏原明神用帳子卷院羅尼○大宮八千人宮神樂○かみ裏湯達院尼妙星祭シテ

廿日○平井聖天宮祭禮シテ割高蛇明寺シテ大般若修行○茅場町藥師如東用帳

廿一日○江法大師シテの傳平方シテ西野井慈持シテ毎月とくも西のみ九月から諸人多

○波多幸持シテ大師用帳子卷シテ○子供の承時信高祭

○源川砂村源川シテ志演稻荷祭シテ宗燒度摩修シテあり砂村の慈持シテあり享保乃以

○御警護の兵シテ台令の旨ありて砂村の穀室シテの大

宋院と無行すありしき今より終まく村商人市とをせり

廿三日○沙糸報恩寺の奉事て廿三夜の帳投る○赤坂町を修む勢を因帳

廿四日○本布押上普賈共用帳十部經修められ○難司う谷家傳も手卷院羅尼源流

○沙糸大内橋手筋花川戸町角山城の石焼舊念佛修祈

○冷え森厄神祭廿三日より执行の如し

○南八丁堀船石渡の底清より度崩降のされと幸を主めより群集してそれとく

廿五日○小石川牛天神祭礼 別高院門寺廿六座の神樂與行

翌廿六日境内にて禮りと催す

○同原町天滿宮神樂別高院象寺

○楊弓絃改物會 古板結界乍作とも非ずる絃改とも圓と絃ひ改るの謂なり
 本ニ二度與行きよの子し華ハ山王宝院院下うちの斐ハあゆみ邊の酒樓を集り
 繕勞と争ひ猪もどりと定て江戸一宿半改一表夫員二百本より中も而六十本以上も
 朱書百本以上も泥書百本本改よ大金貝百八十本以上ハ大金貝とひを作法要一
 ナハ貞享八年刊まる所の今井一津ら作の楊弓絃改事と曰て初るヘアの事も
 天文十八年述作の楊弓絃改蓬矢抄とへる注解と加へてくと書つてねを極也
 貞享の以下射場橋町三丁目冷外三意一計漫島天神門前柏原吉左衛門の御
 宮ノ唐子から絃改場十二本と譽めり當時絃改場山の事ニテ而トナ町ふにアリ
 別處小記す如

△下タ町ハ湯浮矣矢事後町幸野芝赤羽根以至相應△の水ハ坂田町桂風牛込義好
 もか

廿七日○牛込玉滿院十八神神乐無行

廿八日○同馬不動尊祭禮

廿九日○同馬不動尊祭禮

燒てより官居入形もよりかうて多れ波行即

古板より多く裁たまつて

○牛込系町報恩も不動尊因帳○狗込追分裏頓河寺太山同本不動尊因帳

○入谷森宝院鬼子母神手卷院羅尼○白金土筆原電電宮祭雷除のされ出

○三芝居曾我家 中古までハ今日樂屋よ於てあれと執りひとより今ハ曾我

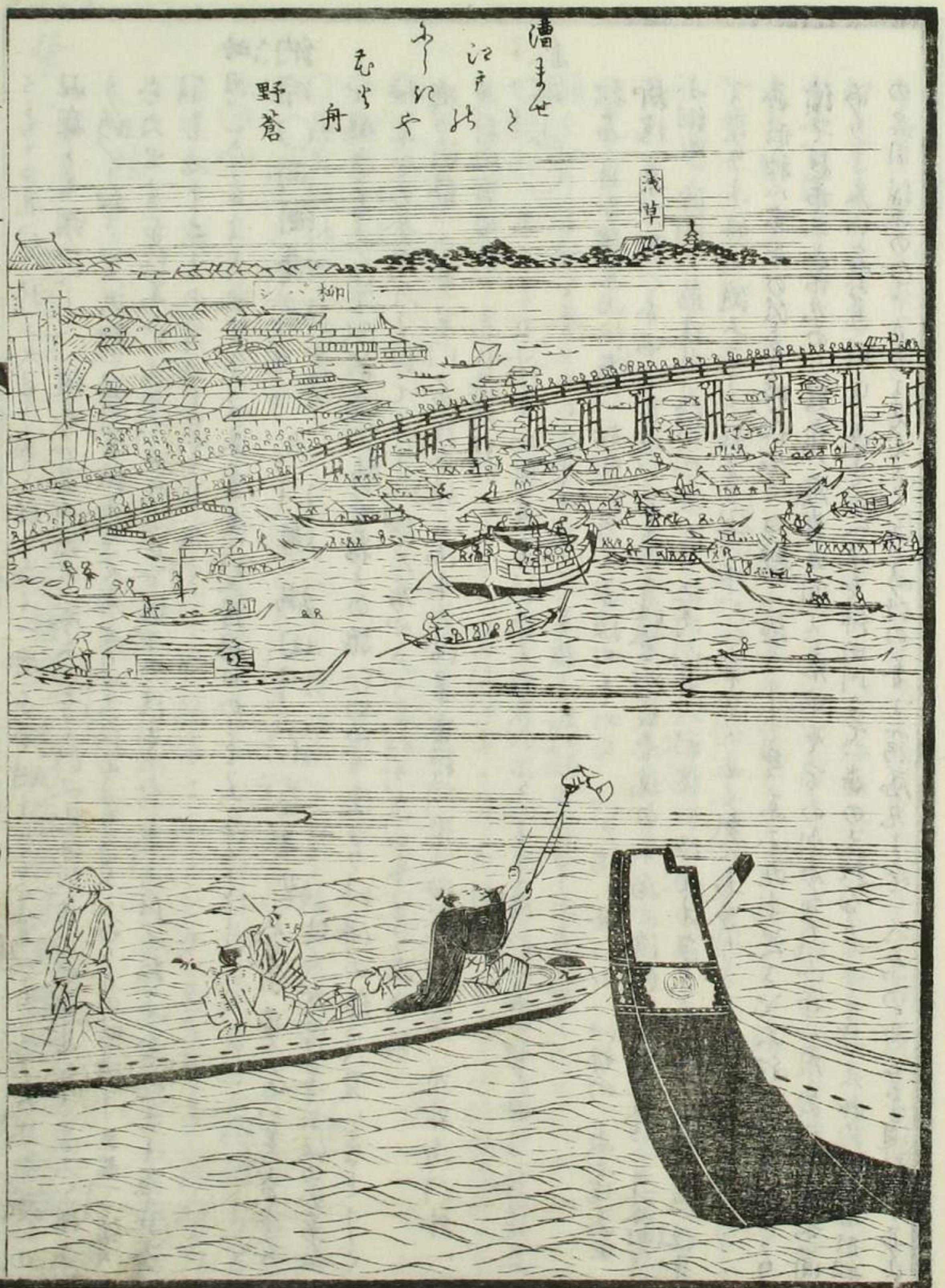
お縁す與行する時も例年曾我家社の神喜とは切場のうよ居テ是とあるは都

奇跡也毎度曾我家と云ふ仕組れん報賽の為今日こまくを多すか

○古ふ橋の夕源今日より始り八月廿八日止終る善玉盆看せ物松店の路

アテ今夜より花火とより逐物貴賤群集モ

ひ地ちの蕃昌アラウ申ふも納涼の夜の娘アラウ様玉小たゞひ大き方ハあゝーあ飛
 の夜申も泊子園の草店横歯の如くひ寄と偶ふ女婿女ハまゆ白小病人富士額重の膚觸
 編小透て涼一色とそよよととく大沙少佐と拂へ道戲章綠櫻櫻猿
 桑戲を余山野の冷禽異邦の奇獸アラウ近裡の觀物招牌とうげ噴火の氣もよひと
 演史弓射戯笑詠萬頭舗桐工御家の麻生果石花葉アラウとて有らまとよまと
 かく橋上の方東ハ肩聲銀鑼轟々然とて雷の如く御日も音沙汰せ草店の燈の灯
 組あらふ映りて晴少さの如く一桂の桃灯ハ波よ少くもめじて令終御紙翻一
 緒奇一時未済く御之不動忽夜雷の磯に聲まくと首と身まへ烟花空中小鳴管一
 如き如慶也宵山宣醉の翔るがよよく風の舞ふくよくふ状を慈神まくい魂



アモウカ元は人持とあく細トヨリ一擲を令晴まわるも宣かりまへふ宇宙最第一の
杜觀とも謂つべ。○健庵の花火は今より多く又小やれ多て黒也かと南よと呼ふ
うゆく御とゞ天和の時の萬歳火も又そぞうちもあらめくり日ふるやうの喧嘩。芭蕉「一あら
も火打もおれ走む其角」かへりと様子や構えのみ全一走り人數ふかれハちを添ふ全

日○今日より而く富士系羣集は六月終日のスミマツキ
納涼○西園橋辺アリ 大川通 鳴田川 不忍池辺
トモセノカミ等が及ぶ

と儀あるひの街の商人多く新の娘ひつすをきり神佛の縁日夏
植木の余商人もけて多一門戸店や戸さぬけ代の下さみ梅翁

通り剛筋 上越尾門あ度小路 山下 沙葉雷神門前 に谷町つ外 市谷清門外
芝神的宮境内 赤羽根川堀

百艘と譽く今、次第少減して尾根本^{本名曰}より少く在り
松高 日本橋東西の岸 鞘町の岸 本渡町を町同 いす橋 城之町 仲野町 及木橋東西
柳橋 速波町 本西一ツ同邊 石原 渋谷川宿妻橋の本通 游炮洲 霧巖^{ムカシ}見谷町邊
小網町 沢川 筋遠外^{スル}仲田川を 牛込門外 細橋 清瀬あり 鹿形尾根^{カキ}山根^{ヤマハシ}櫛牙
三ノ矢ホ好ニ隨^{ハヤリ}ニ丁と称す年、而ふよりてありすかにあから
鹿形^{カキ}、宝永の時より時花^{ハナ}出て百艘^{ヒガタ}又極り、其東またとどもと大船の時と一まつり
續て越市丸山市丸あり、然市ハ度發九間^{クシメ}又毫^{ミリ}不毛^{モロコシ}あり、山市ハ度發八間^{クシメ}又二間
あり、其の名より仲田一丸ともいへる。仲田川にて一當の大船あり、其舟入船の比の鹿形^{カキ}
の名同^シ、築の事^{シテ}力と云々と云う。又の事^{シテ}の舟上窮屈丸とも一人衆の舟を乗通ひの事^{シテ}

きりくへひるとくの名と載つて川一丸芳時丸も圖書もあつてあるひよりゆき
却くまゝり葱麻子名ふ大金はは奈良門の外山居効みを糞かと云ひの桔才舟と云
小舟と造り出一丁立て漁と立壯多男とえりしく是拍子とよみて漕立飛りゆく
走りぬきぬ同さぬ一ウロにも元禄室水のばかり一云く按よ正徳二年よりは二丁立
シ蟻せざる。沾涼う世よりはる桔牙^{キヨカ}舟ハ附屬の波あ木櫓は毎利^{メイリ}見付のむし居効室糞
と云者こそと造り押送りの舟とよびの舟と葉研の形ふ化り魚舟と様て押送りて
舟一是と考へつゝありのうち本船と云ふとちよき舟と云ふを年桔才の
二字と用ひ物の方は狀似^{カタナシ}也思ひとむ

○明和八年より津湖トカス又酒肆茶店と称す。其の邊にて花火とあり。此の後よりは、花火の事もあつて、花火と云ふ。

舊居廬水の筆よりと本わくあるあ書一覽の画巻あよあり
○け月より冷ヒヤニツあトコロテン太向即候シラタマ裏アリわく
○鬼ヨウザ火カうムやマつき雲クモあハ

○西月以神田社地奉天王まれと記るは袴羽織もあら様用意の帳面と被り幣拵也
赤き紙又牛皮天王と印し小符とまれと云ふ事ひとれ小鬼を齧付
源氏もくともやせといひ日毎よろしくとてめりぬ西社神主代官内が捕取まつて
社主すり出づ今も多ひとぞいひと落穂集よ云つまとひ、ももあらすれりぬ
○因極　八月入林のころより半夏生よひに近郊外農家の男女各ひそかにひの
ゆゑと謂へ奇とひて早苗とうそあり

立夏の後
王子辺 王子ハ外
四十日以上
谷中螢汎
高田落合婆見橋辺
同白下通

同黒辺田畠 吾妻森辺 濁田川堤
○合歡花小暑隅田川縁漱と名ふとすれどもをまか
秧鷄立夏より 横場 倭島寺島根岸標茅原辺 サレム雲りる日よ
鴨川村多摩川 略安月より文月の末の日迄

六月

朔日○氷室清祝儀賜水加川疾清藩邸ヤニヤ氷室ありて今日氷献より
町家主も回參モリと以て製シテ候と食シテくまきよヒラフ
○富士參前日八月より群集モ雪ありて登る事シテゆきをかよ炎暑の時成ゆて
登山モ見よかくひよ今日至詰モうかり
駒込別荘ヒロ江戸宿不祀モは社ハ百年もうちそのうちも本モはありの事モ
つづる活人モ本モは年モ無れどもシテうそシテうりシテはかよ人モ思シテ本モは少シテは
遠シテ時モ大喜モのありうちシテはかよ人モ思シテ本モは少シテは
朔日小ハ富士來モてまむれよ不承モ経シテせシテと寛水モの初モはあと蟹別小糸の
申納言モ頗モありて下屋敷モもむかし社の隣モありて毎年モ同祭日モ神モ
あり云モ今日境内モて麦藁モ蛇と椎モ兼行シテ付シテ商モにテ塵拾シテる事モ絶シテ

宝永の三歳モはもううの百姓森八モくる者モ是モ作シテてなされ日市モうりモ
諸人モらモとして求めシテりシテ七月江戸痘癆モもやシテ時モの蛇と季モる都
ちシテては憂シテりシテ是モよりして富士宿モの土産モらモいシテと求シテふがれり
と今モ富士淺写モ勤シテの地モ柳モあシテても商モ又み色モのシテ袋果物モと售シテふ麦モら
みて能シテる手作モの唐モも氷冰モ膳燒豆腐モともじきモ由熟麻子江戸砂子モ
よ紀モこれと今モはふかモ唐モも天モの隣モもありシテかや江戸名物モ麻子モ
司福者の度モりえシテまシテ風モとすりシテ昔モ童子木髪モ札モして持シテと身モ角モ
向モ白シテまシテ若所モや風モとすシテとシテ金モおのみシテ今日境内モ見シテ甚シ諸商モ人モ道シテ
づシテ懸挑モ木多く出シテ後炮洲モ御臺町モ通シテ花方モと納シテる事モ享保二年モ今モ絶シテ
凌草砂利場モ別シテあ涉モま中修善院モ川八幡宮境内モ文化年中石モ以シテ今モ登シテる
とシテ同一の鳥居モ左モ同森下町神明宮内モ後炮洲稲荷内モ茅場町天満
宮境内モ池の端七軒町モありシテ柳原柳森稲荷モ内モ神田明神社地モ神田松
下町モ不動モ小網町モ下谷モ照磨明神社地モ文政十一年モの夏
内モ小網町モ下谷モ照磨明神社地モひと築シテり
高輪泉モも如シテ本モ六モ同院持シテ余糞モをうそシテくわへシテい
つもよき世モの流れシテり
○飯倉二丁目モ然生檜現祭礼三日近修行モ別シテ正官モ社前桂選モ後屋と
補シテり作シテ妻モと出シテ後炮洲懸挑花方モ

富賀岡
富士參

八幡宮の乾の
隅なり五月
晦日より六月
朔日よりみて
山上不登らず
とやうす

完来

不二
清
日乃
や

う
まれ

ゆき
う

山
日乃

山
日乃

山
日乃

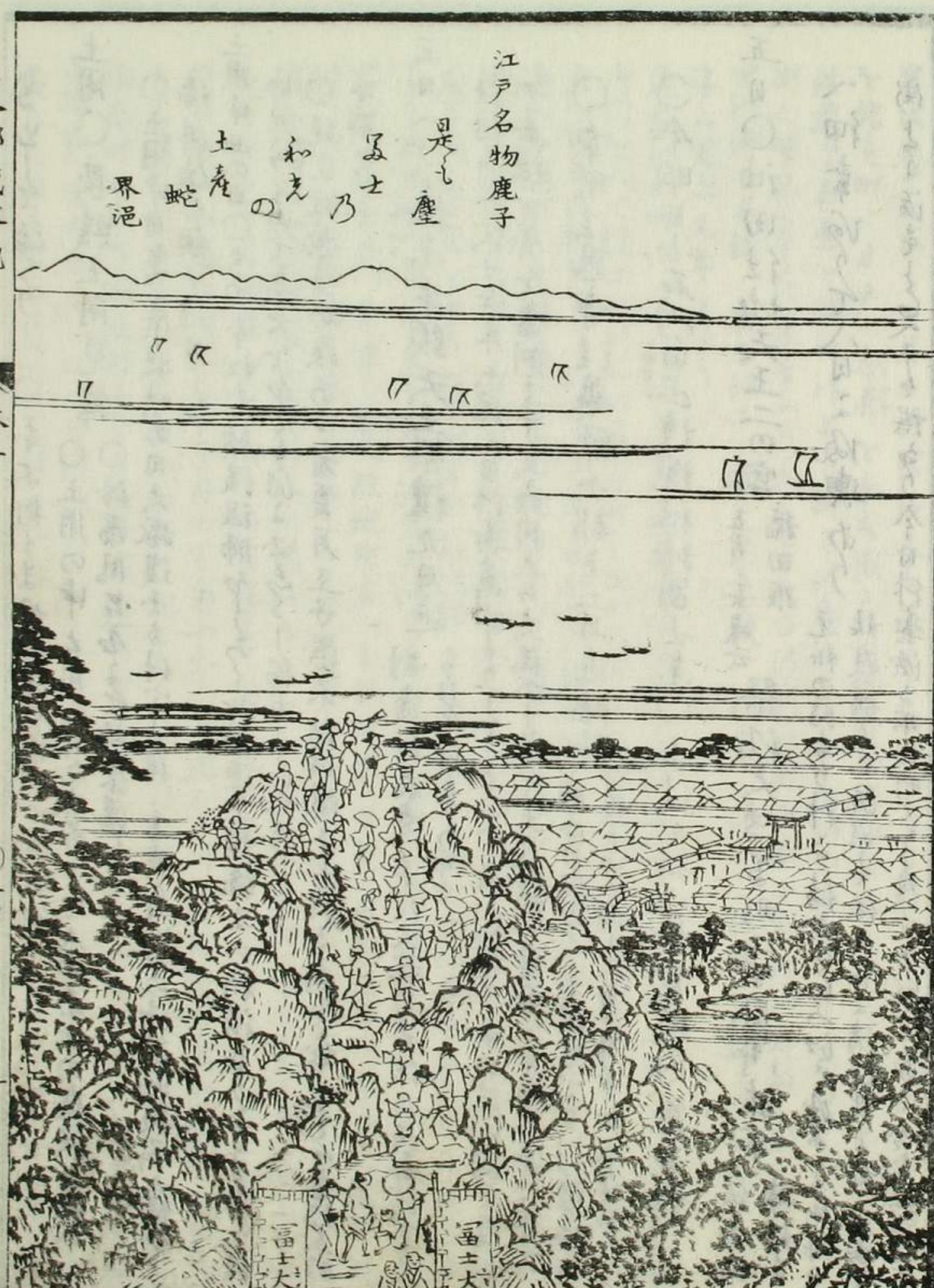
山
日乃

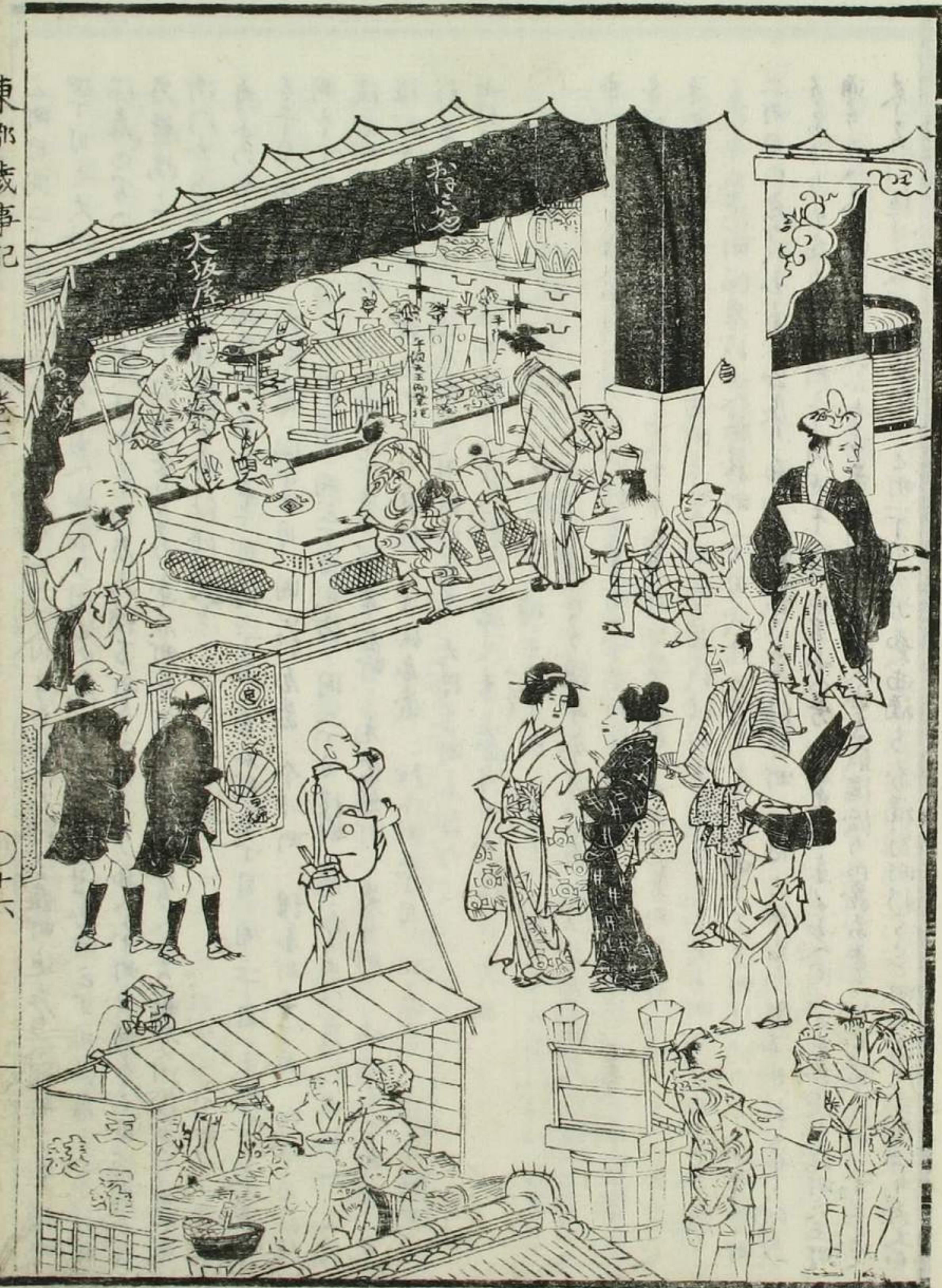
立

立

立

の鳥居





盛夏
路上の圖

行路夏衣

何とも
めぞとく
えきくい
みーじ
うめさ衣
貞徳



之町同二丁目之丁目のちも廢り同二丁目より西へ大体の陸町迄たり同町より本銀町
四丁目と大体の陸町のち東へも廢り同西の橋と之渡り甜食町二丁目河岸と九野町
河岸のちの小橋と南へ渡り先の町を二丁目より西へ本町を同三丁目河岸まで
左轍橋上より（通）河岸を下り本町を二丁目より西へ通町今川橋より筋道
御門山河岸通壁を横の坂より社地へ今

産子の町を 通篠新町 本町幸子同 国二丁同 本石町幸子同 国二丁同 十軒居 幸澤町
幸子同 国二丁同 国三丁同 国四丁同 国五丁同 国六丁同 国七丁同 国八丁同 国九丁同 国十
国幸子同代地 国二丁同元地 国三丁同元地 国四丁同元地 国五丁同元地 国六丁同元地
幸倉町 新岡町 松下町幸子同 幸革廊町 先生物町 岩村町 佐持町幸地 本
銀町幸子同幸地 幸倉町二丁同幸地 幸倉町二丁同 幸倉町二丁同 幸倉町二丁同 幸倉町二丁同
幸革廊町代地 幸倉町二丁同幸地 宮元 大崎幸町あり
七翁集稿圖より、收錄あらうと松乃聲も書くと國の御旅外 其角

七
九
集
後
園
との
收
束
あ
ら
を
松
乃
都
も
ま
る
の
都
と

卷之三

○後年より、門外第六、天神祭礼
本社と並て御へ奉たる宇同代比と茅町二丁同の写山庚りは、まよ御門橋より生庚り又
本社のあたり柳橋をあわて下車をまつ町となり裏門のタリ茅町二丁同の通り向へ生庚り又
元の裏へあたりゆく泰田町と堀町二丁同代比のうち入岡丁と天王町代比の写山庚り
左へ平右衛門町の峠以下旅館町二丁同代比の写と通じ同町と天王町代比の写山庚り茅町
二町同のあたり生南へ生庚り又、同町の写より緑井町一丁同上平左衛門町(井家)前乃
よりより生庚り緑井町二丁同内生丁同の写かの方へ生庚り東より又、同二丁同生庚り丸町天王町
通り通し天王町の写改正會不和より返し通りへ生庚り旅館町二丁同まで
支より引通す衆田町とえもと町一丁同の写更西福もあ緑井町がご町より漏て小築渡り天文翁

前様や町山廻り書替西経町原より出廻り元の小橋渡り新堤より流て津念ちあす東へ小石川留
代地銀山一の写よりる場のあらへ武都地南か出廻り元の三傷の新新をと町代地と
酒家山一の岡山廻り小へ移と町恩舟町代地後川町二写町被箇町は掃除を案新をと
町元も鐵町木の代地的場の写様原町代地少く六尺ずれも町と二間町の写より岡太より
支より四尋あ通りと改襄たり

當社產子の町より有る迄せり番組の通り出一社り地と如甘トウをきはより中絶を
神事より天降に已年よりむづーのこととくことなり

日○神田社北天王一の宿 鳴る 南傳る町二丁目の町旅館へ神幸ありて
十四日返輿あり あやへま旅先のより、まだ十八年六月七日よ嫁シテ云ひ往大傳る町
よ開け作はる所の子ハ通社をくりハ宿先の町也よ、妻を引取又加へ
神輿立むの町へなれど

筋船内時神社より湯島横町大通り神田仲町筋遠橋寺門へ入須田町通り
今川橋本銀町本石町本町至同同河岸より方盤橋寺門へ入松平城奉度寺御陵
神代の方室小屋の前より太手橋より神輿と屢々奉幣あり支よりえの筋船盤
橋寺より神籠橋より教寄屋橋内近支より元の近呉後橋寺門を出左へ方河岸
町河岸を元同自市町邊地店より本校本町至同より同二丁目近支より引久ヘー
多御町並町大通り通寺同よりより町通り京橋のよる神喜と舟多く神酒を拵くま

庚りて南竹る町二丁目の飯屋へとあるの割

十六日坂社乃筋夕八時以夜起と出で京橋まで引ひてきり町目本橋今川橋渕田町
より筋邊櫻新門を出河岸をり湯へま桜町裏をり聖光銀石坂を登り日暮坂社坂飯屋
あり山王清祭の年ハ十四日子初還輿あり

産子の町ハ通至子同同二日同三日同四日同五日同六日同

七日同八日同九日同十日同十一日同十二日同十三日同十四日同十五日同



六月九日

千住大橋
網曳

此行事
を主な

青藤山人
路志引大
明一統志
曰拔河之
戲湖廣歸
州俗以麻
絆巨竹分
朋而挽謂
之拔河以
定勝負而
祈農桑

拔河の事
五雜組も
見えり



宇月

利一
大男網代
や

方乃

本社と生て浮舟通東山へ先旅篭町二丁目近同丁より北廓り同二丁目二丁目の間
西へ曲り淨念寺門左へ野姫堀をり書院而用原爰あら席り同御橋も冥のゑ
よ源ひて後畠町引旅篭町と西り引堀河小橋渡りあね院（あねいん）より三筋町並くなり先
を城町中通り不る城跡作社の後通と号り東へ天文不開原爰あぬ面町一丁目の弓曲
り様原町小橋渡り酒田郡少額爰付て西へ東内橋近同橋隣も北廓り先の様原町以
まへ弓曲爰を南へ尾町近同不東の小路へ入旅篭町二丁目代地通同序町代地南垂り
右へ茅町二丁目大通りへ南二丁目山へ北廓り太きりと東へ本六丁目代地と茅町一丁目
の弓曲へ北廓り浮舟町門卦形の角出廓り茅町三丁目第六天門あより柳橋隣近同弓
より廊りかへ平を萬町河岸より同町の方北廓り下平ち萬町中の魚同萬町代地
と茅町三丁目代地の弓山へ北廓り第六天裏つむりより茅町大通りゑへ同二丁目の弓より
北へ後井町三丁目へ平を萬町より北廓り後井町二丁目通同二丁目山の弓山へ北廓り同弓
通より北へ同二丁目二丁目の弓山へ北廓り尾町通本往へ還裏あり波津終りて社前へ迂り
まわりに翌九日夕未時本往へ波津あり

九日○濱草鳥越明神祭禮 八日より娘へ別處長樂寺住主織本氏吉木爲同
の町へようじゆう物を渡さう同一年不中絶も神輿ハ隔年今自產子の町へと後ま
不約本社の前より南へ走る城町後富町三丁目書院而後町並も北廓り萬松院門
あるへ三筋町南へ走る城町後富町三筋町又本社の前より内橋渡り様原町
と北田家山藩の弓通り天王町の番所へ北天王社前より引通へ北城橋渡り森田町
まで西へ引堀端小橋渡り事よ本社の弓通へ武家地が多かるが平家門あら橋の傍
より西へ太久保旅舍本家あへ戸田家三筋町後より西へ引堀端少橋渡り
津念も様原より北廓り同弓の前より南へ戸田家三筋町後代地同水路傍より波津あり

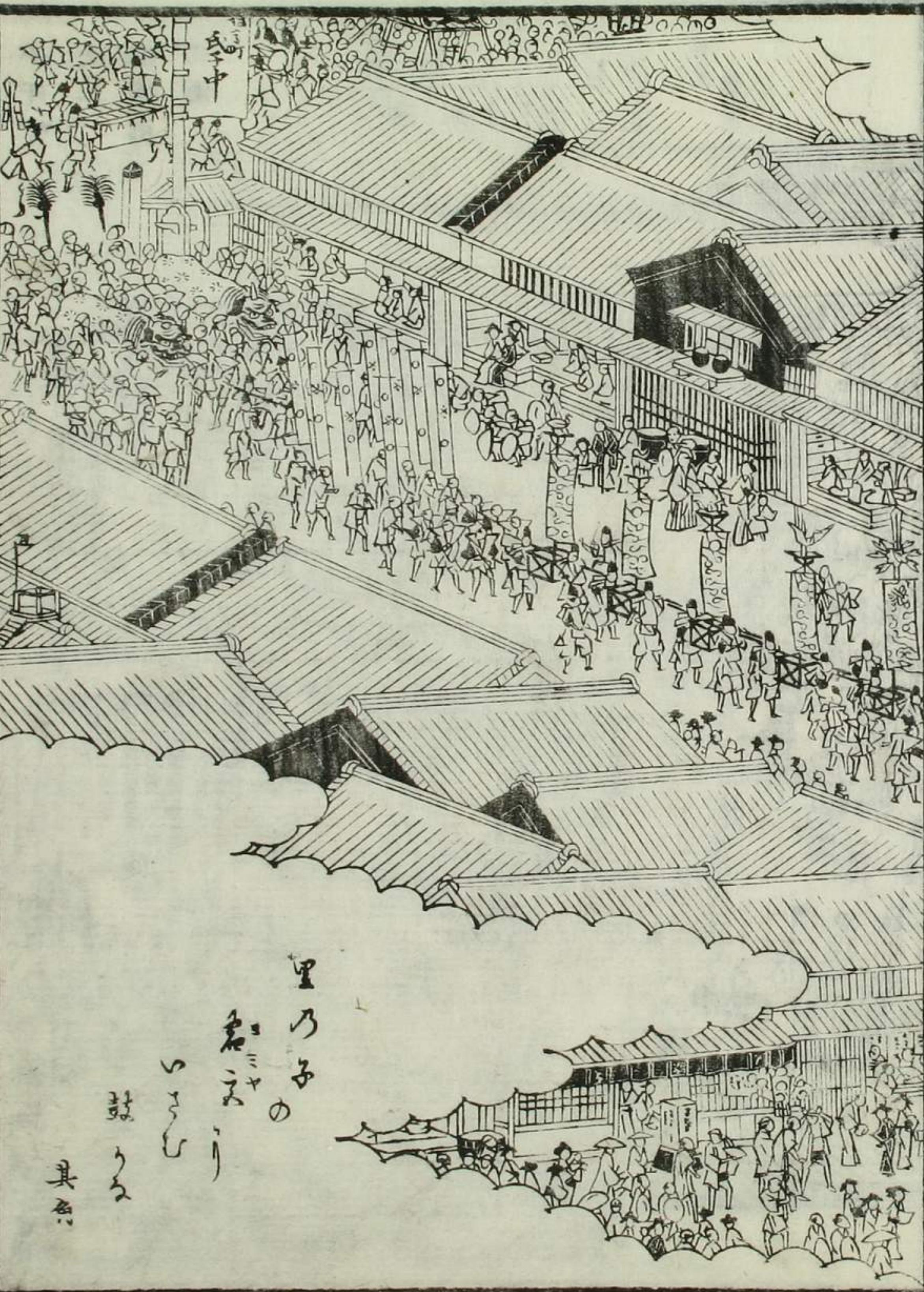
様町へ入左より脚り軒もとご町より源家山中あ桃林寺跡室あ小橋渡り角へ
町筋川町より脚りた左より源家元の小橋跨り本引寺より安寺の写ゑへ諸寺門あ
山福院と東岳寺の写より南へ是れ覺る紫義ある山を脚り蓮光も法泉もつむ御座り
御念も延命院もよし居りあへて源もあが新後院様より鐵田家山中あれ希家の
る所へ小鷹町花森院様より脚り佐竹家様通小川より源より対側家山護院通あへ北平
至別庄山藩の南へ入松浦家井川が山筋の写七曲り通り急角橋渡り本引源寺
寛政八年の番組產子町へたの如く町數廿二丁より數十七を一筋りやど半ノクタマより
一番 源家松院門弟 三番 因下 三番 同様町四番 因代北 五番 同源家
町ニテ寺門亦十二もとあ 七番 右門内の内 八番 因九番 同十番
下谷小鷹町十三番 源家元を越町 壬三番 十四番 壬五番
十六番 壬七番 仰のまも因町の内より生る
○千住大橋綱曳 今ハモリ 小柄京天王の多れより橋のあわよと大縄ソヒヨウひ
も多のをひとよひづらうやもしれも源家山中又自神喜大門と波せらすありつゝ見也絶えり

日○神田社地天王之の宮奇稻田姫城
山田の大姥ナガマタ

小舟町三丁目の御旅所御旅所補足 神幸
ありて十三日帰粵カイゲンより
のる娘ひととよ嫁マリり小舟町社還カイケンより大
きな樓へとたゞ夜ヨメと嫁マリもは車カミ正徳セイドクの下シテより賑ハラタクきりとも外ソト大オお燒ヤク桃モモを
うやうへ着マツル中の光景コウジンを絶カタマリの如シテよすくの如シテい今自ジ神妻ジンセイ波ハの如シテ筋スヂある記メモをよとトの
キハ出ハシル度シテあり

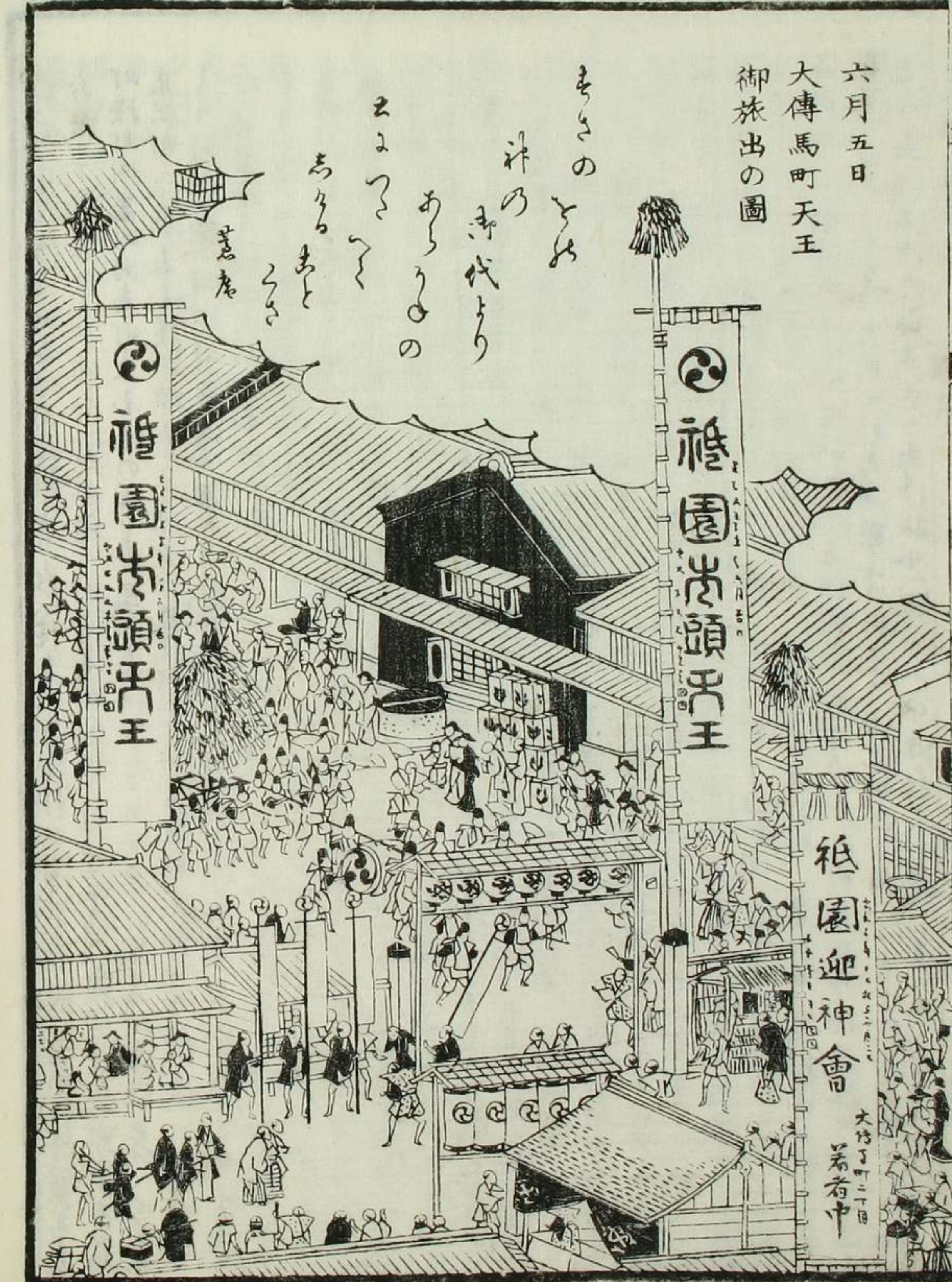
明治廿一年神田社首カミタシロとあたへ湯宿ヨシタ三丁目通旅鈴町より度シテ小路コザ筋スヂ遠アリ櫛門スジモンと入り酒田町
通り今川橋渡カミカワハシり本石町二丁目横ヨコ町本アより席シテ三丁目通旅鈴町小絃コハラ町幸同

二丁目三丁目同三喰町幸丁同横町より左へ橋本町上平横町付木店（）を右に進む場所用原處
あき二丁目裏通り同二丁同表通り同表横町同罕同湯系門廣小路左川町下柳系同朋
町横町同裏町同表町表玉橋の中より左り表左門廣小路左川町下柳系同朋
米沢町三丁目表玉廣小路みて小体あり米沢町二丁同萬研坂不動の赤横山町三丁同裏方
より同表通り同二丁同裏通り同幸丁同西邊町より橋町幸丁同二丁同横山町
二丁同裏通り横山同朋町表松町村松町二丁同幸丁同久松町本戸隣（）より左り同町橋本戸
より度り行河岸通り同二丁同（）表井町小橋渡り○表井町より緑橋渡り左へ油町河岸を小橋
る町三丁同河岸通り同二丁同（）表井町小橋渡り○表井町より喰町幸丁同河岸右へ度り
表井町裏河岸○表井東橋と度り小傳る上町代地と背せりより（又表井東橋渡り小傳
る上町○）らうや裏つ通り表左門廣小路左谷川町加野た左谷川町表左門廣小路左谷川町
元浜町南沢町表左門廣小路左谷川町加野た左谷川町表左門廣小路左谷川町表左門廣小路
川岸より元浜町河岸左人形町又表左門廣小路左谷川町表左門廣小路左谷川町表左門廣小路
二丁同横町より海幸二丁同へ入（）左へ表左門廣小路左谷川町表左門廣小路左谷川町表左門廣
表左門廣町同横町へ入度り岩代町表左門廣小路左谷川町表左門廣小路左谷川町表左門廣
戸より度り又元大坂町より同横町（）へ入度り小細町幸丁同横町たゞり表左門廣小路左谷川町表左門廣
あの度りより左へ行徳河岸小細町三丁目二丁同幸丁同横町たゞり表左門廣小路左谷川町表左門廣
坂町幸丁同左（）へ行徳河岸小細町三丁目二丁同幸丁同横町たゞり表左門廣小路左谷川町表左門廣
瀬戸内町（）本小田東町幸丁同横町同二丁同（）通り接ひせ町本船町同河岸左へ漁戸内丁裏河岸行勢町裏河岸
ます度りて宝町幸丁同横町同二丁同（）より度り表左門廣小舟町三丁目二丁同幸丁同横町たゞり表左門廣
本横町へ入長浜町幸丁同安打町（）表浜町二丁目より本船町荒和布橋照障町延沢町幸丁同
同二丁同幸丁同横町表左門廣小舟町三丁目二丁同幸丁同の坂角へ入轍
あり表社渡御筋多きり表佛旗石へ戻りよみ深表又主曉え及へり



六月五日

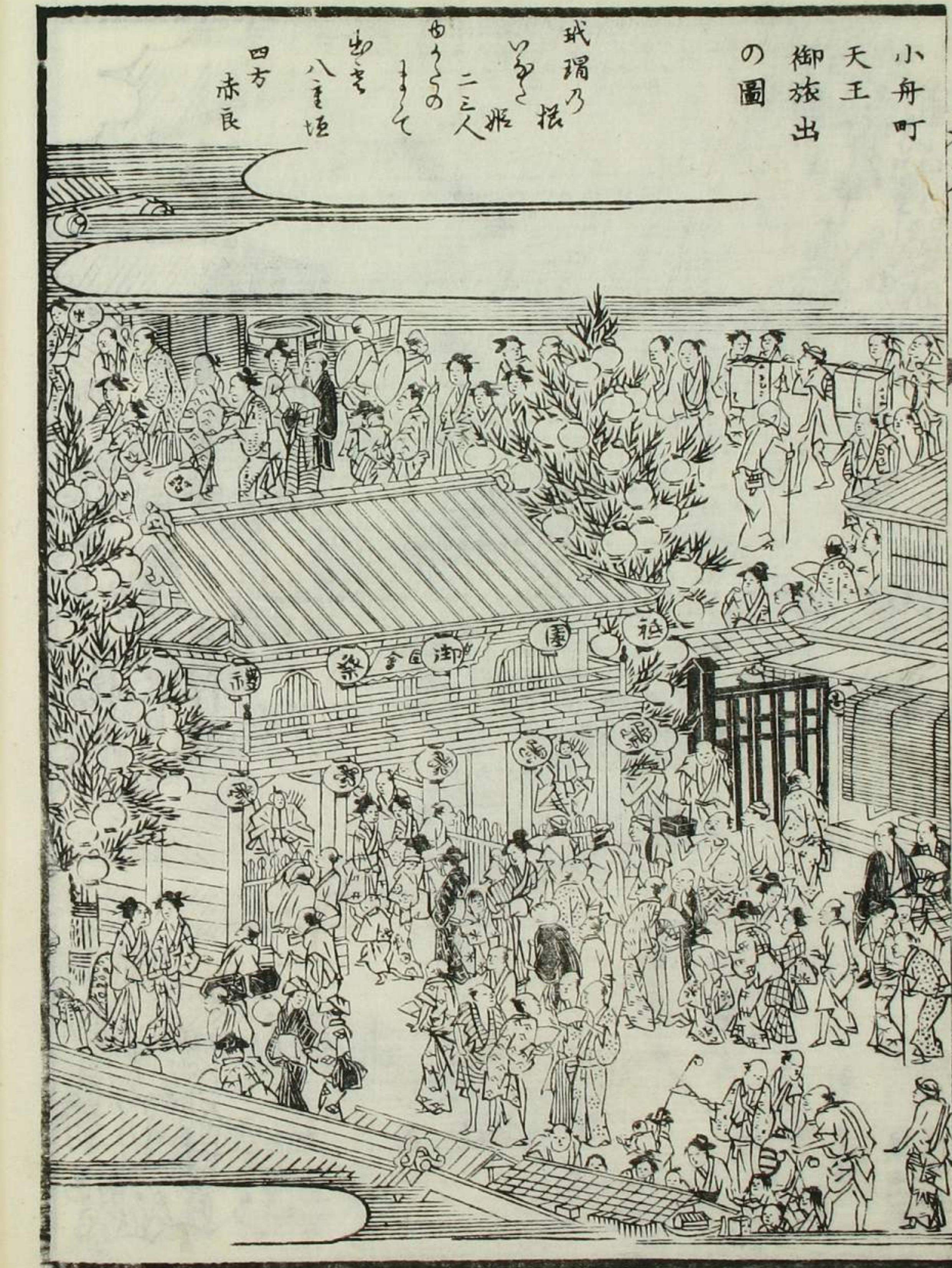
大傳馬町天王
御旅出の圖



小舟町
天王
御旅出

の圖

戎瑞乃
八重垣
二三人
ゆきよの
よもて
ゆきよの
四方
赤良

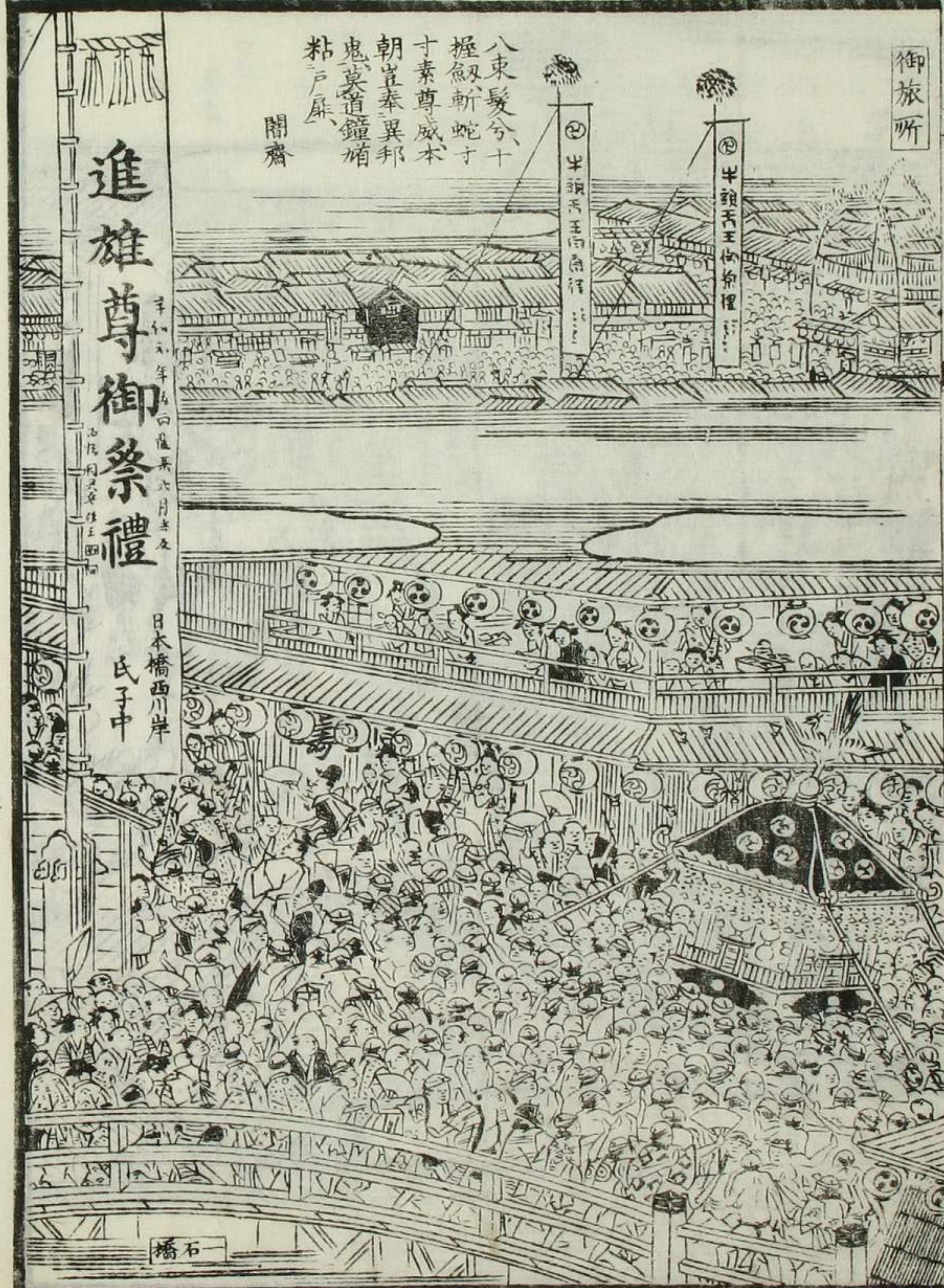


之國御天子町南條

東都賦

卷一

卷之三



進雄尊御祭禮

日本櫻豐岸
氏子中

卷

十三日 滝社筋申刻山坂を出て小舟町二丁同三丁同左へ右へ馬橋本より廣り酒尚
左丁同より左へ大様町通り左へ本石町甲同之丁同左へ今川搞通り湊田町より筋遠
渓門と出で酒屋通り聖堂組の坂より左へ登り社地一選轄あり
庄子の町へ 小幡町左丁同 同二丁同 国三丁同 国甲同
左の坂町 左町左丁同 同二丁同 国三丁同 国甲同
同三丁同 高野町甲同 同二丁同 湘户町 本町三丁同裏酒屋 三崎町左丁同 同二丁同 国三丁同
同三丁同 堀畠町左丁同 同二丁同 本町三丁同 通町 一丁同 同二丁同 先大坂町 委計町
水内町 四裏河岸 村松町 喜松町 久松町 露沃町 横山田間町 大谷川町 通延町 本町
三丁同 国三丁同 穂井町 小幡町上町 同代地 右有屋義 小網町左丁同 同二丁同 同三丁同
周吉町同横町 あらわ町 四面町 麻油町 彩村本町 千柳系同明丁 同影迹 岐町
堀江町左丁同 同二丁同 同三丁同 国三丁同 堀江町左丁同 菅原町 修勢町 本多東町 佐治町
東波町左丁同 同二丁同 同三丁同 吉野町 桂山町左丁同 同二丁同 同三丁同 莢原酒煙
新栄町 広介屋敷 本多屋敷 本多町 長瀬町左丁同 同二丁同 宮元山東町少
十一日○ 大塚護多寄山内富士集り十二月近集行あり

十四日○今明日龜戸香取太神官祭禮
香取氏 恵戸小村ホの村と云ふ事
當社の山伏屋とて吾妻森より東田の仲より下りの地あり往古齋礼殿りし時は皆
より印と流しもの止り下る而山伏掛と定むとて別印と流したりよこの事より止
にて山伏掛と定められたる時は地へ作業を辻まが一ある往古うの地あるべまゝほの
例とりや象乳の式故てソアヘの後少て山伏とて山裏とふうへき多岐の事と粉の
粉をうけて薺の著をせへて山伏屋よりて室あふ山伏一産子の人民も是と食ひ往古
おの辺人民少くね之へしきのうみやびあて今々くびへとせ
○小村井村香取太神官祭禮今年の日猶行利高君妻森室蓮ち薰弟近津幣と挿筆と近し

源ノ多ひあふ太俗たさん箇事くり

○山王神祭禮の節日より

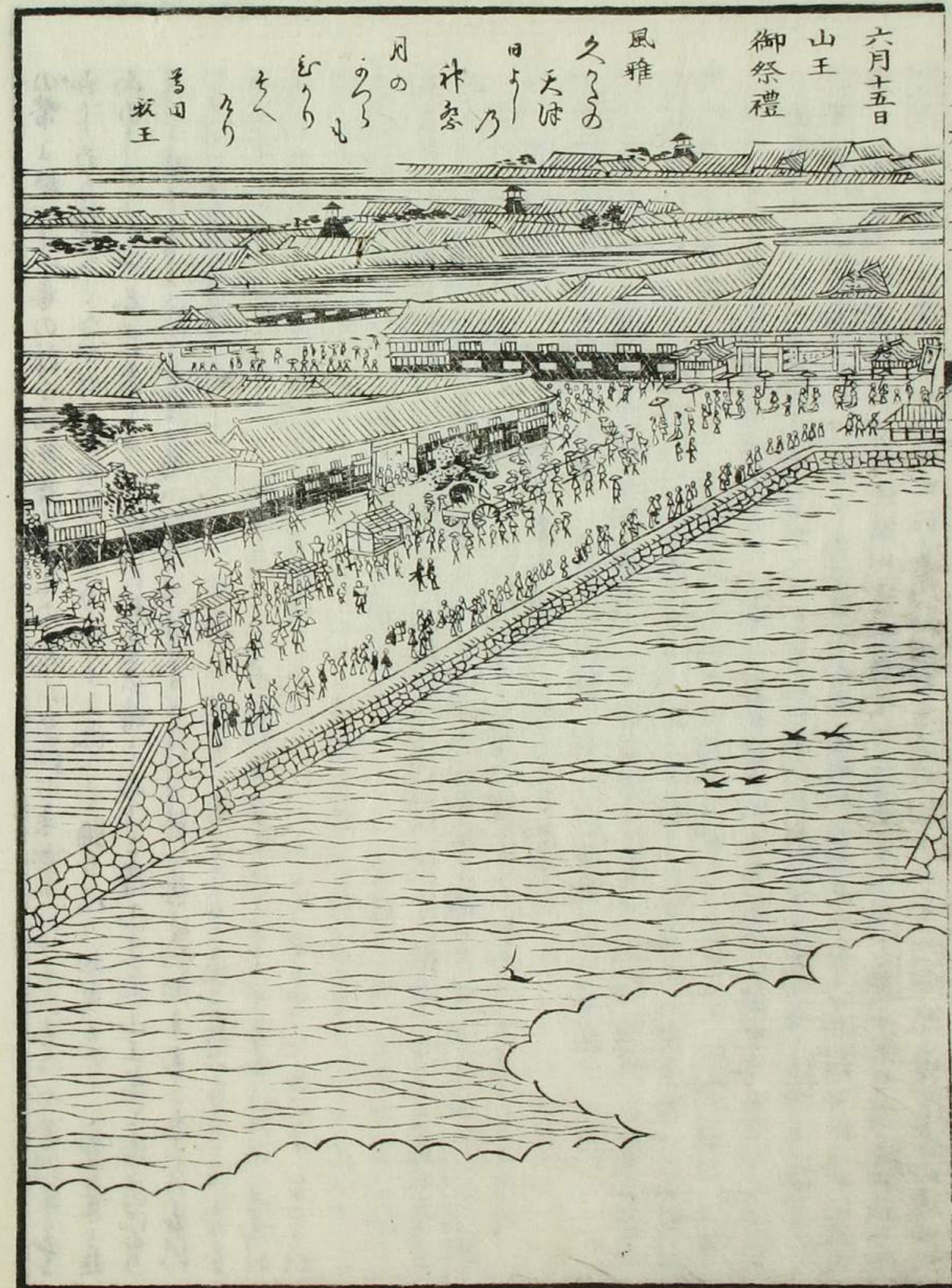
世作意官とし、いたるに數聚抄ヨウジ、齊歌等
多^チの名目メイモト、すりやえの名たりとソヘリ

者も眞一社布よ於て讀經あり退散の後神を東帝社家島帽子鷲家にて布衣素
絶向丁あの徳者と眞一社びよ於て祝詞伴樂ありひより産子の町やを今日より半
途物列とかして街とねりわりくあすけりとりひよ筋の武藏町をかす二日より機發城
撲へ幕と紫花蓬毛纏と浦金屢風と立軒桃打あきらひやくふ調へて今日より賓客と通
へ珍酒嘉肴と養しありすぐさくあきて時とまく街の娘ひえをすゑば

十九日○永田馬場日暮山王權現社御祭礼 別處勤理院神を樹下氏
往古八年八月十五日神喜祭のにてより余承て御事ありてう元和年中より御

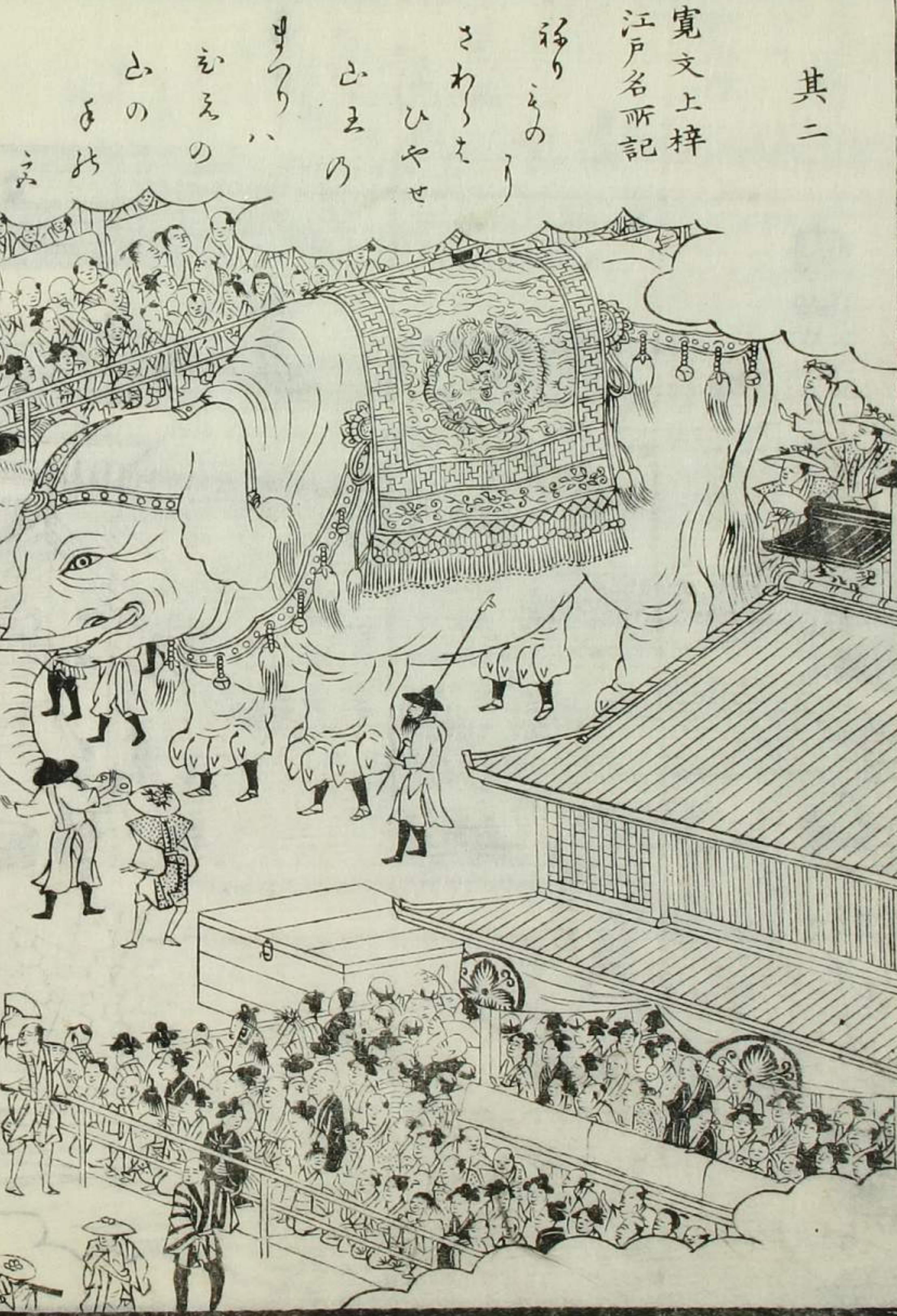
入るよりとより又寛永十一戌年より大祭より天和の御より隔年よりもせらるゝと
高社御幸れ、東都第一の大祭より天和日付未と止く櫻りよを引と櫻を御山躋を
柵と締ひ接戸ハ二階と禁せゝ諸處よりハ長柄槍懾と出にて警をせしめられ又林
木と牽せゝる等の壯士行列と稱して慶ましり
彦子の町南之と限り又ハ鶴町東ハヨハ巣崎小納町堺町の辺と限り也ハ神田アリキモ

津祭り番組相傳江戸ノ事
一一番 大傳町 二番 南傳町 三番 鶴町十三分車河町山元町
汎左衛門町本村木町幸丁目二丁目三丁目四番 小王町南大坂町丸庭町
幸丁目二丁目五番 河原町右幸丁半トヨタニシテ初穂トテ報多ト納モノの例あり 六番 楠町 七番
本町幸丁岩付町本革屋町金鷹町 八番 疾河町兩川町同裏河岸小鞘町本多賀町 九番 鶴
戸堀町河勢町本小田原町十番 宝町二丁ト本船町安打町本町三丁目裏河岸
十三番 烏羽石町幸丁免多馬町羽革屋町羽石町幸石町幸丁目十四番 本因幡町同鷲町
牛丁一本十五番 須田町通羽衣町連雀町十六番 繩金町之浦町幸丁目十七番 小網町十八番 羽林木町
十九番 朝来堀町北番 岩町舊鹿町往吉町羅波町幸波町牛丁之本廿一番 羽太坂町因木町通油町



其二

寛文上梓
江戸名所記



此番富沢町長谷川町 **三番** 波庭四丁分洋美出一 **四番** 通四丁分吳坂町免大工町 **五番** 槍
 町上林町牛一 **六番** 本林木町牛子 **七番** 喜村町喜町元日市町佐内町牛一 **八番**
 大張町本林木町又丁目牛子同七丁目牛一 **九番** 長瀬町長瀬町喜瀬町東瀬町 **十番** 林正町南
 沖町川瀬石町小松町音羽町平松町牛喜町 **十一番** 滝町岸金町下桂町桂町 **十二番** 本子瀬
 守子分 **十三番** 本瀬町 **十四番** 南糸町糸糸町糸糸町弓町 **十五番** 行川町出之町芝に守子同西側 **十六番**
 泰慶寺町影青町 **十七番** 本林木町八丁目柳町县足町沟谷町 **十八番** 南鍋町牛守町 **十九番** 教寄尾
 町 **二十番** 美巌崎四丁目市町同治町美崎町牛子同小糸町大川場町南糸町 **二十一番** 四土番
 八郎兵衛町小糸町 **二十二番** 本林木町八丁目柳町县足町沟谷町 **二十三番** 南大主町 **二十四番** 久慈町 **二十五番** 吴屋崎根丁吟
 油轡行列 小旗 大旗 長柄繪 太鼓 **二十六番** 拍人一人 拍板二人 田樂二人 獅子頭二拍人
 大口人 社家謫る 布絆三番 **二十七番** 二人 社家謫る 神舞 社家謫る 神舞 **二十八番** 南太刀貞
 社家謫る二人 **二十九番** 一の宮佐奉 **三十番** 二の宮佐奉 **三十一番** 三の宮佐奉 **三十二番** 三の宮佐奉
 二人 造り兒三人 大拍子持二人 神妻 捣人六十人 清張板持二人 神机持三人 神妻 捣人辛人
 謫る **三十三番** 一の宮佐奉 **三十四番** 二の宮佐奉 **三十五番** 三の宮佐奉 **三十六番** 三の宮佐奉
 造り兒三人 大拍子持二人 神妻 捣人六十人 清張板持二人 神机持八人 **三十七番** 三の宮佐奉
あはれ 社家謫る 素抱三十人 清幣持二人 造り兒一人 大拍子持三人 神妻 捣人辛人
 清張板持二人 神机持三人 社家謫る 衆徒十萬 **三十八番** 武者とよ 別當四方妻 神主轡
 長柄繪 **三十九番** 異外佐奉藝壇祭

未明出一遙りの山下門と入日比谷門の清祓端み満て櫻田門の前より左の通りと裏田
 が當りの南番付坂とこのゑす事の登り山王神社の前より右へ水田町梨の木坂下り清祓端
 通り山王神門より内廊へ入竹橋門と山下木屋酒井家山屋敷小笠原邸の前より清祓
 と山下門と入り先のた筋と通御本社へ還裏あり。年中移支大成より都祭社内
 おり十軒店舗本石町二丁目守子同より左へ猪砲町を通り猪砲町にて猪砲町の宮伏
 京師ハ經園舎大坂ハ天湯參り乍ら山王神會を日本の大堂と云とどり而て廟宇

天下坐や土車其角「處付」と書くもまづのまづかひの御金

○赤坂冰川明神祭礼 別當大祭院 風土記よ天武天皇三年甲戌

丑卯巳未酉亥の年隔年又執事ありて十日より娘へり十八日みそ津集人苗あて

櫻子通引とゆうされしむ王達現神田助作と續一太鼓花火奉事の町くふ各出一

締り也とめて花火とをせり乃列承番組左の事と

神社 祐田彦 獅子頭二 **一番** 赤坂表傳馬町牛子同 **二番** 国二丁同 **三番** 国裏

猪弓町牛子同 **四番** 国二丁同 **五番** 国三丁同 **六番** 元赤坂町同代地 **七番** 赤坂町牛子同

三丁目 **八番** 国三丁同牛子同 **九番** 赤坂一本町魚屋大次町 **十番** 行大次町 **十一番** 赤坂町

二基 神主祠る 社家二人 別當乘輿 先繪二十筋

今約六時より始り冰川社布衣由武家也より赤坂町通牛子同より牛子同表傳馬

町牛子同より南へ國二丁同と一つ本町の牛子同より北へ國三丁同先赤坂町と西り向町と裏佈る町

牛子同の牛子同より入裏佈る町二丁同の牛子同より左へ國三丁同先赤坂町と西り向町と裏佈る町

入左へ先赤坂町代地と一つ本町の裏佈る町牛子同と太平裏町度四番发事の牛子同より左へ國二丁同牛子同の移りへ入り牛子同

學りみ丁目と武家地の右へ武家地と一ツ木町塙坂通りより引廻へ先の乃丁ノ本社

後の武家地の右みて終る

○清葉之社神現祭礼 今日未刻田舎浦あり人の衆人鳥帽子垂巻と烏帽子の西経
幣と村内源流小田系の衆人柏枝持て入鳥帽子人太鼓お二人ひもを絆せ冠は水桶大を被れ刻と隨
本塙より神事堂のあら縁へる御廟ふ鑿り柏板浦ありす拂りて見る者もより下り三平三瀬女
の面とウシロコリの面と御ておふえ人を力と接觸て御ゆきありくめるハ
四例うその傳より牛田系の衆人雜りあふゆきの各例あゆてものと較世若出候の時蘇と結
りて安坐せし十人の巫翁事のあゆりとひの神事ハ猿食の左大将事ありと云候
○橋場牛頭天王祭礼 神事御神宮境内より神事船にて川へゆく神事と相く者
裸あるか世よもさう祭とひの神事ハ天正十五年の製造事と
いづる彦穗集追考云神明宮神事某の傍より橋場神事宮の地と沙入とひの神明宮乃
多れ六月十六日より泊入の御めし事とて今テ町ノ神事漫らせらまく民子とも
悉く生てうきりよ一人とて多神事の様よきと付るのみかく悲く肩中そくらき
あらびく波うちり波くわらひ草くつと云々今日八半段天王のあれあると神明宮
のあれもあらうとく徳いたるりの如也

○山谷勢田明神祭礼 十三年未六月までも毎年たの町より六番の牛頭天王祭
年々タラタラ同一年より中絕モ 一番 清葉躬身越季用二番 因町の内三番 因二丁目
四番 因二丁目五番 同里丁目六番 四助 因那今戸町本以上み丁ちり

○隅田川水神社祭禮 別當多門寺神事 二基第紅色 ○柳鴻妙見宮國帳 別當

- 高田宝泉寺 水稻 菩提内 富士系十八日迄 諸人羣集と駒込小金一く麦葉の蛇と
○難司谷鬼子母神系雜の神事と近の農父集りて社邊の草を剪拂ふの行うなりと
山車なし ○白山神觀裏門通り妙供と妙見宮國帳
- 芝浦小輪綱十四日迄製織さて今日むかひ十六日より賣初の由あ板より人づけは法事
○六郷八幡宮祭礼 別當建長寺六丁の勢應やさかり神事キ基羽田より大師治京
○河崎山王權觀祭礼 沢田村の旅店へ神事あり近中少て花火一踊り等出で振る
年事一神嘗後御の並へおもて神幣七本、弘安のひの物とて高社の神室より
十六日 ○加祥院祝優諸侯御登城良賤佳節と祝モ 老く様と製さし下絨の
と個人含むするやううていふへの例ふらうとふや
- 山王神社奉事 御祭事よりの者産子町の者今日未刻よりれありと
○妾妻森官妻權觀事れ 別當宝蓮寺
- 十七日 ○木下川薬師堂 神君御神影出拂事て神禮をやむ
- は時節とり之度の芝居太用体とて程々と体もとの方と用志と名付く
差の役とて是の弊病通り少しおの佛像あつて無行毛をきじより始とどり
- 十八日 ○四谷天王稻荷祭礼 社勢作田の神の社本村氏別當宝蓮院今日より一日迄
四谷行方町二丁目小側へ仮屋立らうとして神事基御旗出

六月十九日
本所一ツ目辨天堂
琵琶會

七十一番職人盡
歌令
琵琶法師



あり清旅の在るへ因因只神牙飾海老を參く本社生子の町くたの如一拂り角あつて
組ひ大方角くに神樂通乃脇助後輪より

○天王產子 因谷経寺町 東子同 因影寺子同 因二丁同 因三丁同 因淺町子丁同 因二丁同
同三丁同 因恩町 因修多町 同山茶翁町 同坂町 同仲町

因成郡小仲町の内合ひの場 紅坂横町 蓼原横町 左の横町 恵茶横町 表左衛門町
裏大蔵町 祥きよ様町向 そ外武家地

○稻荷產子 元絞り 携町 同小町 絞り 携谷町 同南町 同仲町 同表町 同八軒町 同
裏町 因谷経寺町 安樂もつあ 檜園系ら躬承 絞り 携邊義家方

今日四時より神喜二基と獅子改二聲と後一申刻の旅不へ島あり作一今日生妻
の時と二基より小天王の產子と後一女一日神喜時六二基とくすり稻荷の產子城波も
獅子改町の内年番とを飾るありけ獅子改の内附獅子のとあるとねじらは産子の町よ闘争ありとくひくへりあは
季九月古まちの隔年カリを世へ年く不孰りあり

○駒込序町大圓寺秋葉社祭礼 ○戸田稻葉山權現御史江 別南光院

十九日○本所一ツ因毎天社琵琶會 東由二月の伴と合せ又一人今日主師か小納涼
涼とゆふと珍享保國板の竹不手中乃度かアヨの歌の歌主の内公の近道も修すかと云
同々えぬ間くちびの涼が拙口同生ま度改くやく涼が其角

廿日○大塚若翁谷林泉寺あぱり地御子目矣今明日

○源川様に摩利支天役神除矣名誠後修仍



風巻古神
祠不知何
歲移應是
巨靈內闥
南
詔

六月廿四日
芝愛宕社
千日奉



廿四日○芝愛宕權現社子日系 別當田福也 世保里方六子日ともりけ日よ詫すれ
の如一壇内を青破舊を集め諸人是と佐て腰或は小児の虫の根と切つとくよばれ
を隣のち岳にて山より眺をすれにまきる房総の輝や波ようしひとくハ芝浦の風景を
みえどもとく沖乃舟もほゞ登くぬまき近ふアモ羽羽田の祠邊ハ松枝森くとて夏日よけよ
昇きハ源史ナシニ御の署をと忘れ地仙屋小松よくゆくゆく

○小石川戸崎町喜運寺地主子日系 土人豆腐地主とひよ諸人

○本布引久愛宗社祭清め橋の向あり○神田岩元町地主あり

○白金樹木谷覺林寺清正公社祭礼 開 ○はま幸珍も清正公あり

廿五日○龜戸天満宮名越神事 卑朝神社の邊弓矢木の仮をめつらだをまき
船を浮キ堅川より一の橋の川に近海津ありこの而又波まみてゆひへう今と季節の身
ま一今見神事をゆもとくあす向ひの心とく

○大窪西向天満宮祭礼 別當太聖院 隔年少行ひ

廿六日○南八町蛭井難鬼太神宮祭礼 もくハ九月廿八日行ひ

○石川妙法院山忌 天目上人の忌あり

廿七日○相川大山參詣の難廿六日の頃より江戸と立つ 江戸裏手を小町をうちの
○相川大山參詣の難廿六日の頃より江戸と立つ 絶賛賤一活人本多・津井

廿八日○南八町蛭井難鬼太神宮祭礼 又云 盒前追と云。盒

廿九日○初山 又云 六月廿八日○七月道七日朔日○相の山 又云 盒前追と云。盒
三十日○又十七日鉢山近と云 赤羽降山大山もハ源アとある事十八里
す能百里八石肉百石不動菩薩別處八大方防食より十二坊般若堂外より大勅を説か
奉る不動王御前不動石も大權現ハ二十八町山裏の頂小山りく傍ノ 大天狗
小天狗の社あり度々と事もあらずモは同日陽りて登山とあらび夜よ遠をり諸人
群衆かへ乃中高く空氣往来えを紙へる事も一梅酢を満するを遊び乃竹
捨持細工と大産と山間登山のみハ宝庫のぼりもとまつりとく

○石菖蒲取 大山事蹟の者大川より出でて振離を後禪定を又まこと處者ある
事も行念し内中より投を流すを以てよしといた。よしを以てあーとすく多く雀下庵
云えんげく六こんざいもうだらももうざいこんがうどじ大山大聖不動明王石菖
蒲根大天狗小天狗とよ文と唱ふるやさんげくハ慚愧誠悔なりくらんざいゆ
ハ六根罪障からむやくやまちうざい大峯ハ大なりことく渴きとも伝の心をもつて納
文一中人かんあゆ中人以下のよきやく以よあ人をかくとく

廿九日○湯崎靈雲も岡山忌 岡山津嚴和尚の忌よりて修祓

廿八日○佃島住吉明神祭礼 今明日修行 神主年忌氏小の日ハ名越後と同日之
海中より昇入奉る今日深川佃町とも遙拜の仕ありて參れ物有り

真先神明宮
夏越祓

視吾堂集



吉川惟足



まもる乃
あまりハ
すゑの
お酒さけ
すうや
まもる
すゑの
お酒さけ
すうや
千葉

○玉川妙玉も出拂古文書を外諸什事と津せしむ

廿九日○涉草寺盂蘭盆會

一山の死徒観世音堂あよもしく修めあり

晦日○夏越の後

同月より 榴場神明宮

雷神門の前より施設鬼棚と設く

同月○夏越の後

同月より 榴場神明宮

社前の門辺に於て執りあり世人

個所經吉明神社

芝神明宮

刻

神田明神社

成

御内太神宮

多越明神社

み象天神宮

下

飯田町世縫稻荷社

刻

谷

之外備神社より作並河と奉り神樂舞があり神事終りて美音の聲

の聲と越後し河邊は隔りどもあとも盥より水とりて水をまつて川に比せたり

○け日廢人紙と云ふ衣類の形を切て縫ひて一門へ投毛

○油茶寺花構

御散花經版乃花燒毛の如き

○今日より七月晦日より追家にて外は燈籠桃灯等燒毛

と聲もゆうも院へも燒毛あらそ

○下旬燈籠燒毛

○今朝より吉原仲の町兩側の茶庵少く家毎よ様の燒毛城りす

奇羅と御身の腰羅と云ふ人あま花禽獸の形或ハ山みの風景と似りおよりと
又ハ桂遠と號す遊女の方中西月より日暮物のま神輶轉一毎鼓吹にて繁昌繁ん
よれのう一廊中燒毛の始りハ角町中万字庵の名坂玉蜀とぞうらと西忌の追薦

蓮○小暑の辰 不思池 東都第一の蓮池なりあ葉あげて水面と茎蓮萼婉々と

よりはゆき道遙を以て大の洞環梅戸まく毎夜落葉版を落す萬葉の名産

赤坂溜池

同月

門外 市谷門外 牛込門外 増上寺

中華茶

ノイヨウシウ

中日ノ每天

の細あり

同月

の水

牽牛花

アサカホ

而く植木屋 ち崎村百花園

至外多一

文化のあたりは花の奇品と號ぶナセニ行毛名毛も隨てかく又壇柱タ
巧手にて千愁万色いろある極め京都の好人あまらぬ小遊今とまうけ早且ア
數多の花あと樹木裏り優秀ときどくあくまに名と儲けぬひまも形持てとソメ
多々八異物のりねやて愛玩すに足りざれハ是年の写ふて文政の始より絶一
寫入り○桂葉的鬼斧桂葉ありく

紫茉○武蔵野より自然已生の草なり今ハ烟工作り春分種と供一夏用白花淡
紅毛入少从東江都繁花多きり半深の絹布女子の好みて其流行せり中世
江戸草とて名稱ふるい今を生ふると里根と称一要則青絹津粧修り江戸へ運送す
りのとふ根と絹子を除後少り半内から薩州鹿児島絹別最上より出るととすと

古今物語集の如きは、必ず其のものと云ふ事もむづき
○虫食いの如きにあつては、其の細子をまとめて虫糞なりのあり
○毛根の如きにあつては、其のやうなものは、光後
江戸歳事記卷之二終

